

民
情
一
新

明 治 十
二 年 八
月 發 兌

民情一新目錄

緒言

第一章 保守の主義と進取の主義とは常に相對峙して其際に自から進歩を見る

可し……………一五

第二章 人間社會の種族中孰れか保守の主義に従ひ孰れか進取の主義に従ふ者

ぞ……………一五

第三章 蒸氣船車電信印刷郵便の四者は千八百年代の發明工夫にして社會の心

情を變動するの利器なり……………一五

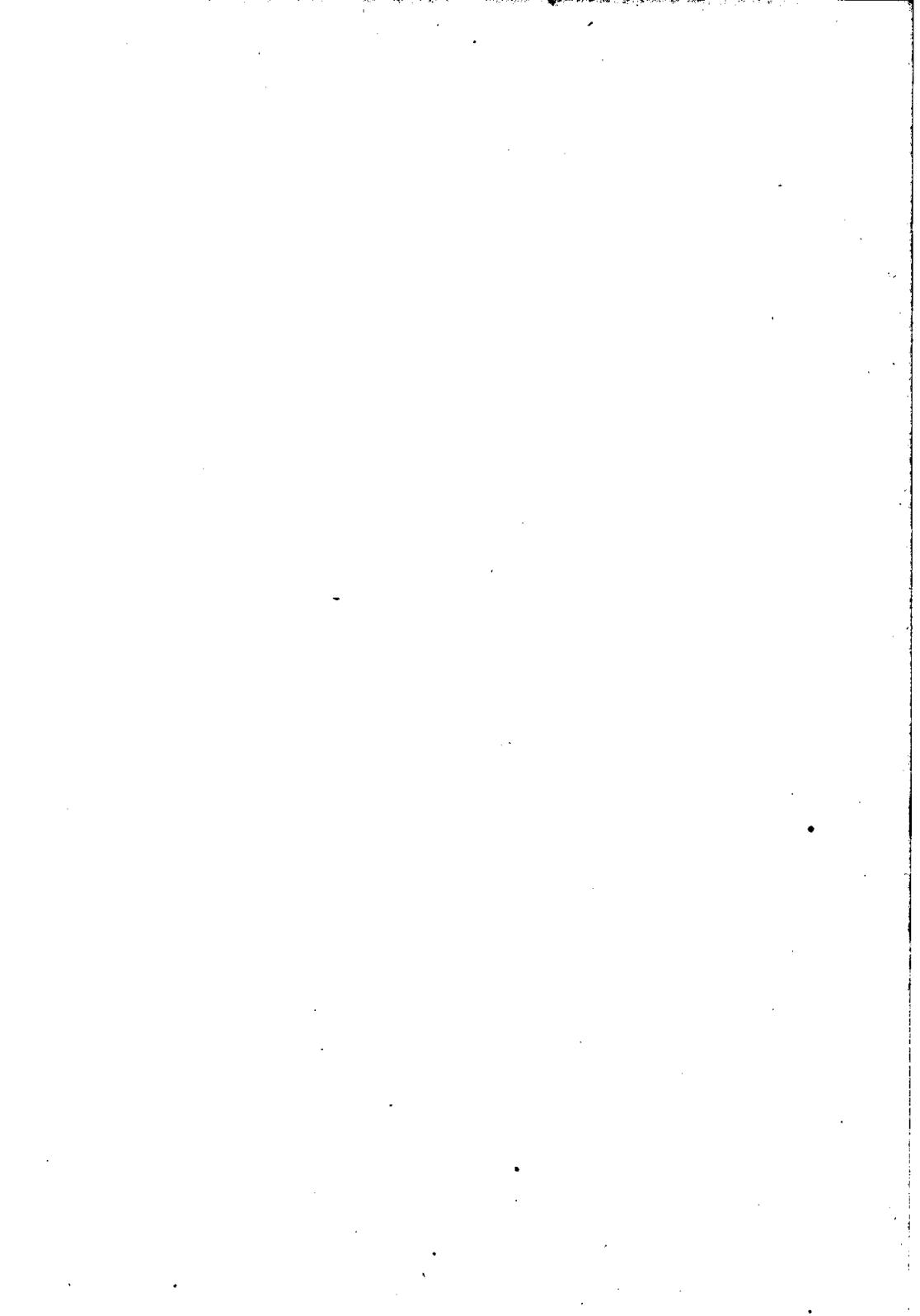
第四章 此利器を利用して勢力を得るの大なるものは進取の人に在り魯國及び

其他の例を見て知る可し……………二〇

第五章 今世に於て國安を維持するの法は平穩の間に政權を受授するに在り英

國及び其他の治風を見て知る可し……………二六

目錄終



民情一新緒言

世論皆云く西洋諸國は文明開化なりと此言誠に然り余も亦決して其然らざるを説く者に非ずと雖ども唯漠然これを文明開化と稱して其文明開化たる所以の事實を指示明言するに非ざれば之を學び之を採用するに當て大なる過なきを期す可らず抑も彼の文明開化は土地の廣狹人口の多寡に在らざるは無論、徳教の盛衰にも在らず文學の前後にも在らず又理論の深淺にも在らず試に亞細亞と歐羅巴とを比較して東西に行はるゝ徳教の旨に何等の差別あるや耶蘇も孔子も釋氏も正と云へば共に正なり邪と云へば共に邪なり互に之を論辯して唯一場の宗門爭論に終る可きのみ文明開化の深淺に縁なきものなり、又西洋の文學と支那日本の文學とを比較して流儀こそ違へ其巧拙に至ては決して判斷す可らず唯東の文學に巧なる者が西の文學を知らずして之を拙と稱し、西に巧なる者が東を知らずして不文と稱するのみ、其巧拙文不文は他

に在らずして各自の知不知に存するものなり文學の前後を以て決して文明開化の標準とするに足らず況や理論の深淺に於てをや西洋の理論決して深きに非ず東洋の理論決して淺きに非ず或は其深遠なるものは却て往古の印度に在りと云ふも可ならん西洋諸國の文明開化は徳教にも在らず文學にも在らず又理論にも在らざるなり然ば則ち之を何處に求めて可ならん余を以て之を見れば其人民交通の便に在りと云はざるを得ず兩間の人類相互に交通往來するもの之を社會と云ふ社會に大あり小あり活潑なる者あり無力なる者あり皆交通往來の便不便に由らざるはなし交通の便を以て恰も人類を摩擦刺衝して其身心に活潑を致すときは復た閑靜に安んず可らず之を譬へば山居獨坐の幽人は其心も自から虚無にして求る所少なしと雖ども此幽人をして市井喧嘩の地に移らしむるときは其心虚無ならんとするも決して得可らずして耳目鼻口の働自から世俗に通達するを常とす風流を以て云へば一幽人を俗了することなれども文明の點より之を評するときは其人の身心を活潑にして實地の働を得せしめ

たるものなり人間社會も亦斯の如し交通の便を開くは人の身心を實用に導くの一
原因にして人心一度び實用に赴くときは其社會に行はるゝ文學なり理論なり皆實用
の範圍を脱す可らず故に東西の文學理論を比較して其前後深淺に差なしと雖ども甲
は實用に遠くして乙は之に近きの別あるは其原因遠く社會交通の便不便に在りと云
はざるを得ず東洋風流人の評論には西方の文學理論は俚俗なりと云ふことならんと
雖ども其俚俗は今の文明世界の有様なれば之を人事進退の動力と認めざるを得ざる
なり社會交通の大切なる斯の如くにして西洋諸國に於ては夙に航海の術を研究し百
千年來其人民が北海地中海の地方に往來するのみならず遠く大洋を渡り地球上處
として到らざるはなし其物を貿易し其人を移し風俗殊異の國土に到り言語不通の人
に交り名狀す可らざるの艱苦もありしことならん言ふ可らざるの愉 もありしこと
ならん其身心を切磋琢磨して其聞見を廣くし以て活潑進取の氣風を養成したるの利
益は東洋人民の嘗て知らざる所なり、されば今西洋諸國の文明開化は單に之を其交

通便利の一原因に歸し西洋諸國は開明なり何となれば則ち交通便利なればなり、東洋諸國は未だ開明に至らざるものあり何となれば則ち交通尙不便利なればなりと云て可ならん

然るに千八百年代に至て蒸氣船蒸氣車電信郵便印刷の發明工夫を以て此交通の路に長足の進歩を爲したるは恰も人間社會を顛覆するの一舉動と云ふ可し本編は専ら此發明工夫に由て民情に影響を及ぼしたる有様を論じ蒸氣船車電信郵便印刷と四項に區別したれども其實は印刷も蒸氣機關を用ひ郵便を配達するも蒸氣船車に附し電信も蒸氣に依て實用を爲すことなれば單に之を蒸氣の一方に歸して人間社會の運動力は蒸氣に在りと云ふも可なり千八百年は蒸氣の時代なり近時の文明は蒸氣の文明なりと云ふも可なり蒸氣一度び世に行はれてより現に舊物を顛覆するは無論、凡そ人事の是非得失を論ずるに舊時の先轍に照らして之を判斷す可らず正に是れ今日は世界一新の紀元と稱す可き者なり昔年西洋人が彼の緩漫遲鈍なる帆船を以て僅に遠方

の各地に交通して尙且人民に活潑の氣風を生じて位を東洋人の右に占めたり況や今後この蒸氣船車を以て地球の水陸を飛走し電信郵便印刷の利器を以て人民の思想を傳達分布するとあらば其勢力の増進實に測る可らざるものあらん一新又一新、一變又一變、遂に舊物を廢滅し又變革し盡すに非ざれば止むことなかる可し唯其際に聊か舊慣を維持して古俗を存せんとするは辛ふじて改進急變の震動を制節するものにして臨時の策たるに過ぎざるのみ此れを是れ知らずして何者の腐儒か舊物を墨守し徹頭徹尾以て大勢の方向に激せんとす、何者の輕薄兒か古風を裝ひ以て一時を瞞着して社會の大計を誤る、咄々怪事なる哉然りと雖ども大勢は恰も世を載するの船の如く心波情海滔々たる其間に居て獨り之に抵抗し獨り之を瞞着せんとするは船に乗て動くことなからんを欲するものにして其策の拙にして其心事の鄙しき固より論なし此腐儒輕薄兒の如きも早晚大勢の船に乗せられて歸する所ある可きのみ
蒸氣電信の勢力斯の如しと雖ども特に西洋人の私有に非ず其發明は西洋に在りと雖

ども西人も自から之を發明し今日僅に其功用を試て自から其勢力の強大なるに驚駭し又狼狽する者なり西洋人が此利器を發明したるは鳩にして鷹を生む者の如し雛鷹の羽翼既に成れば半天に飛揚して衆鳥を驚攫し時としては其所生を嚇することもあらん母鳩の驚駭狼狽も亦謂れなきに非ず然り而して此鷹の生れたるは僅に五十年以來にして其勢力の稍や實際に顯はれたるは二三十年に足らず今日は固より世界中共有の物なれば各國人民の氣力に應じてよく之を利用する者は人を制し、然らざる者は人に制せられんのみ余嘗て言あり鉄は文明開化の塊なりと蓋し亦此文の意なり今後我日本に於ても鉄を掘り鉄を製し之を自由自在にすること軟弱なる飴を取扱ふが如くにして以て鐵道を敷き電線を架し機關を作り船を作り武具を作り器什を作り人間需用の品物一切鉄を元にして製作するに至て始て文明開化の日本を見る可し但し人民に氣力を生じて然る後によく鉄を用る歟或は鉄を用ひて然る後によく氣力を生ずる歟、此點に就ては必ず世間に議論もあることならん余も亦これを推考せざるに

非ずと雖ども本編の趣旨に非ざれば之を他日の論に附す

前に云へる如く西洋人は蒸氣電信の發明に遭ふて正に狼狽するものなり其狼狽は何ぞや民情の變化に在るのみ老人は少年の活潑にして其心事の早成に驚き、富人は貧者の不遜を憤り又一方には其思想の高上して往々言論に條理あるを見て之に感服し、政府は人民に苦情多くして飽くとを知らざるを憂ひ又一方には其氣力活潑にして共に國を守るに足るを見て之を喜び、喜ぶが如く憂るが如く憤るが如く感服するが如く之を要するに唯正に狼狽するものより外ならず彼の英國の風俗の如きは最も今日の民情に適するものと稱して尙且民情變化の徴候を顯はし役夫の輩が「ストライキ」として仲間に結約し其賃銀を貴くせんが爲に職に就かずして雇主を要するの風は近來に至て益熾なりと云ふ貧賤者の心事次第に異常なるを見る可し又同國「ジッボン、ウワークフェールド」氏出版の植民論に云へることあり

人民の教育を稱賛するは方今の流行にして社會の百善皆教育より生ずと云はざる者なし余も亦甚

だ同説にして斯くあらんことこそ企望する所なれども如何せん今日に至るまで未だ之に由て一善の生ずるを見ず下民の教育は其身の幸福を増さずして却て其心の不平を増すに足る可きのみ我國普通教育の成跡として見る可き者は方今「チャルチスム」と「ソシヤリスム」と二主義の流行を得たり

此主義は佛蘭西其他の國々に行はるゝ社會黨と大同小異何れも皆下民の權理を主張して貧富を平均し議院撰擧の法を改革する等の説にして結局貧賤に左袒して富貴を犯すものなり

警察の官吏は此黨與の説を壓倒すること甚だ易しと云ひ又或人の考には此黨與の根元は微々たるものにして憂るに足らずと云ふ者あれども余を以て之を觀れば決して然らず右二様の主義は畢竟人民の不平心を表するの徴候にして其人民は役夫中に教育を受けること最も深くして所謂土民の境界を去ること最も速き者なり此景況を以て察すれば今後教育の次第に分布するに隨ひ正しく其割合に準して貧賤の權理説も亦次第に分布し教育に一步を進れば不平にも亦一分を増し多々益増進して富貴の權柄と其私有とを犯し遂には國安を害するに至る可し亦危険ならずや云々

右は植民の法を勸るの辯論中斯る有様なるが故に早く過剩の人口を他處に移す可しとの説にして本編の所記とは其旨を異にすれども亦以て英國民情の一斑を窺ひ見る可し、されば今日の歐洲各國は人智進歩の爲に社會の騷擾を醸し朝野共に未だ其方

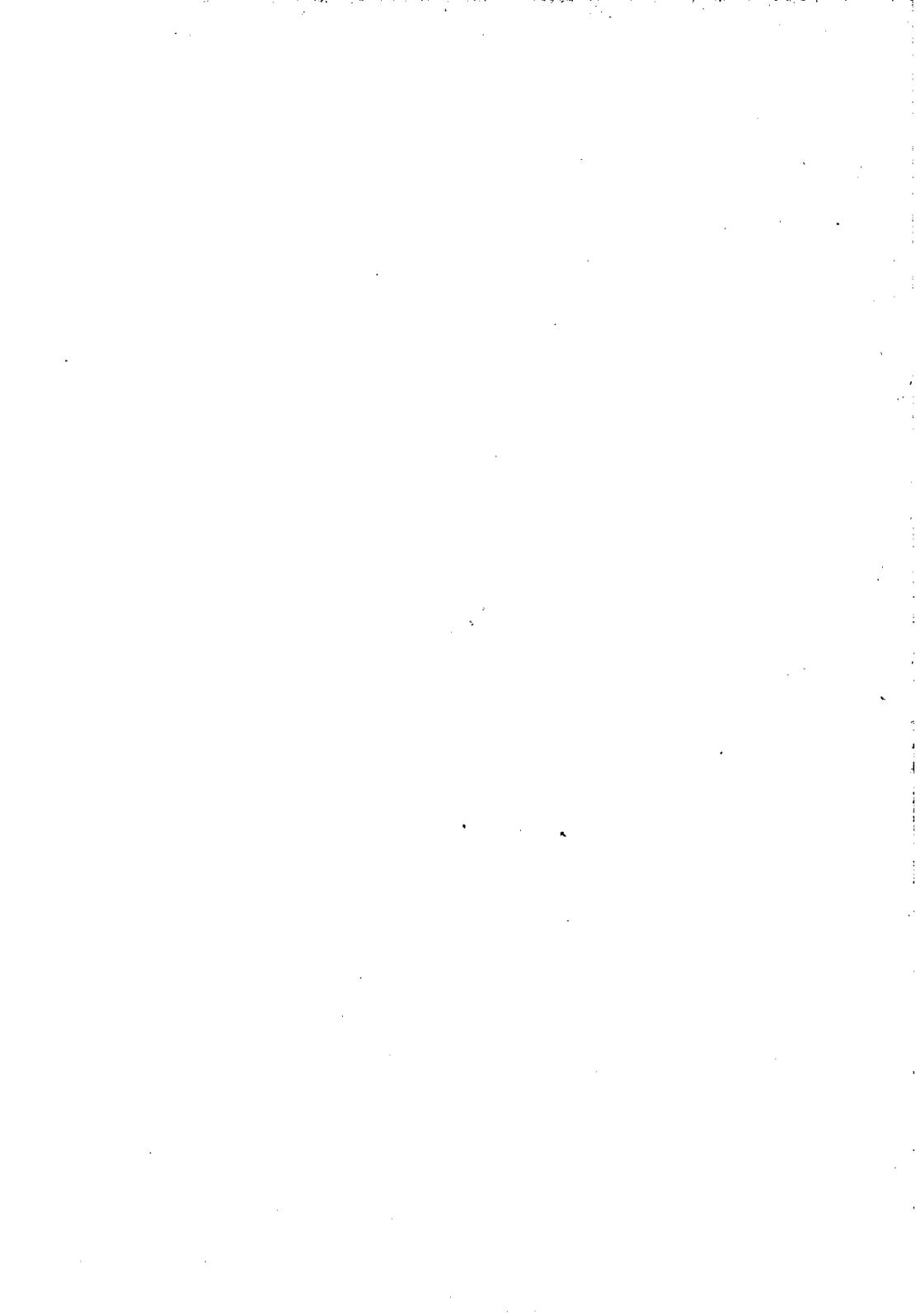
向を得ざるや明なり今後の成行を察するに物價も尙昇降することあらん貨銀の割合利足の法も次第に改まることあらん文學技藝商賣工業一切の人事に影響を及ぼして隨ては政府の治略も一變す可きは疑を容れず佛蘭西民法も不都合の條を發見することならん魯西亞日耳曼の警察法も無力なるを悟ることならん所謂驚駭狼狽の世の中と云ふ可し然るに爰に怪しむ可きは我日本普通の學者論客が西洋を盲信するの一事なり十年以來世論の赴く所を察するに只管彼の事物を稱賛し之を欽慕し之に心酔し甚しきは之に恐怖して毫も疑の念を起さず一も西洋二も西洋とて唯西洋の筆法を將て模本に供し小なるは衣食住居の事より大なるは政令法制の事に至るまでも其疑はしきものは西洋を標準に立て、得失を評論するもの、如し奇も亦甚しと云ふ可し今日の西洋諸國駭正に狼狽して方向に迷ふ者なり他の狼狽する者を將て以て我方向の標準に供するは狼狽の最も甚しき者に非ずや某家に火を失したり家婦俄に起て周章爲す所を知らず金箱の大切なるを忘却して僅に一個の行燈を携へて路傍に彷徨した

り又某家の主人急病に罹りたり家人醫を招くを後にして先づ遠方の親戚に報知したり何れも皆狼狽にして火事急病に處するの標準とするに足らず我日本にも西洋の文明を談ずるに當て此家婦家人を學ぶ者なきを期す可らず徒らに世界識者の嘲を買ふに足る可きのみ故に云く余は西洋の文明ならざるを説くには非ずと雖ども其文明は特に近時の文明に在るの義を辨ずる者なり而して其近時の文明は蒸氣の發明に由て生じ此發明を以て世界各國の民情に影響を及ぼして恰も斯民を一新したるものなれば此一新の實況に應じて事を處する者にして始て與に文明を語る可し本編立論の旨は唯此一義に在るのみ

又終に一言を贅す前記の如く本編は蒸氣船車電信印刷郵便の四者を以て近時文明の元素と爲して論を立たるものなれども文明の事物は甚だ繁多にして必ずしも此四者に限らずとの説もあらん若し其説あらば學者試に今の西洋の文明を欽慕す可きもの、恐怖す可きもの、として先づ考を定め然る後に頓に不可思議の因縁を以て世界

中に此四者を滅却する歟又は人類をして此四者の用法を忘れしむることあらば其時にも尙彼の西洋諸國に欽慕す可きもの恐怖す可きものありや必ず是れなきを見出す可し假令ひ或は此他に見る可き事物あるも其事物は西洋にもあり東洋にもあり是非長短各固有を存して遽に優劣を判断す可らざるものならん然ば則ち今の世界中文明の元素は蒸氣以下の四者として妨あることなし其旨は縷々本編中に記したれども讀者の了解を便にせんが爲に重複を厭はず簡單に數行の文字を緒言の末に附するのみ

明治十二年七月七日著者誌



民情一新

第一章 保守の主義と進取の主義とは常に相對峙して其際に

自から進歩を見る可し

在來の物を保ち舊き事を守て以て當世の無事平穩を謀る之を保守の主義と云ふ新らしき事に進み奇なる物を取て以て將來の盛大を謀る之を進取の主義と云ふ或は之を改進と名づくるも可なり此兩様の主義は世界古今何れの社會にも行はれて各其働を顯はし又各一時に其働を逞ふること能はずして相互に軋轢し其軋轢鍊磨の際に些少の進歩を見るものなり若しも兩様の働其平均を得ずして一方に偏し天下の事物頑固に停滯して動かざる歟若しくは遽に進動して止る所を忘るゝときは大に人類の不幸を致すことあり譬へば徳川二百五十餘年の太平を見るに元和偃武一度び天下の平穩を致して朝野相共に其平穩無事に慣れ一事一物として新奇に企てたるものなきが如し幕府を始め諸藩に於ても唯舊法保守を以て專一と爲し或は事に當て法なきものは先例を以て標準に定め如何に困難なる事變に際するも古格先例に依らざるはなし概して之を云へば徳川の世は先例の力大にして出格の働なき時代と稱す可き

ものなり二百五十年の久しき寸鐵を用ひざるの太平は古來世界中に其例を見ず此太平の割合にして文明進歩の遅々たりしは何ぞや其原因蓋し保守の固きに過ぎたるものと云はざるを得ず其事實を計ふれば枚擧に遑あらずと雖ども今一例を示さん寛永年中耶蘇教を防ぐとて外國人の渡來を禁じ我國人の外國に往來するを止め次で天草一揆の後益この禁令を嚴にして一定の國法と爲し又隨て一般の先例習慣と爲り何等の要用あるも外國人に交り外國の事情を知らんと欲する者なきが如し文化年中には魯西亞の軍船蝦夷地に來て事を起し其騷擾前後八年、國の一大事變とも云ふ可きものなれども尙外情探索の念はなくして横文など讀て海外の事を談するは此時までも殆ど禁制の有様なりき畢竟外交拒絶の先例を保守すること固きに過ぎたるの弊と云はざるを得ず若しも寛永の後に假令ひ外交は拒絶するも天下の士人に許して荷蘭舶來の書籍にても自由に讀むことを得せしめたらば西洋の事情は「ペルリ」渡來の前に既に明にして嘉永年中の狼狽もなかりしことならん保守に偏するの害も亦大なりと云ふ可し此一點のみに就て考れば當時社會の爲に極て願ふ可き事柄には非ざれども寧ろ二百五十年の太平を持續するよりも其際に五十年又は百年を隔て、内亂外戰の劇しきものに逢はゞ爲に人心を震動して却て文明の進歩を助るの機を得たることもあらん保守の禍は戰爭の禍に交易して益することありと云ふも可なり

保守の弊害極めて大なりと雖ども又一方より論ずれば進取の進て止るを知らざる者も亦甚だ恐る可し都て世事の弊害を矯るは斜に傾きたる柱を槌以て打直すが如く一槌未だ正を得ず次で二槌を試み二槌三槌正を過ぎて又反對に斜に傾き、其過ぎたるを直さんとして一方より槌すれば舊の斜傾に復して初より槌せざるに若かず蓋し此柱を正立せしむるの法は鉛直線に照らして螺旋の器械を用ひ靜に其位地に至らしむるに在るのみ柱に於ては此器械を用ゆ可しと雖ども人事は則ち然らず假令ひ其弊害の明にして斜に傾きたる柱に類するものあるも開關以來人類の智と情とに於ては鉛線螺旋の如き顕敏なる働を以て其弊害を矯めたる者あるを聞かず之を矯めんとすれば矯るに過ぎて直を失ひ其過ぎたるを止めんとすれば則ち舊の曲に復し一矯又一矯恰も鐵槌以て斜柱の根を敲くに異ならず況や其正斜を照らす可き鉛線もなきに於てをや千七百年代佛蘭西の大騷亂の如きも貴族門閥の弊風を憤て之を矯め遂に其矯正に過ぎて復た亂暴に陥り暴を以て暴に代るの譏を致したる者なり又事柄は些細なれども我國維新の初に於て天下の人心舊弊を惡むの勢に乗じ之を矯め之を排して止まる所を忘れ凡そ日本在來のものは無形の制度風俗も有形の器物品物も一切これを棄て、顧るなきの情なりしが近來に至ては其これを棄るに過ぎたるを悟り漸く舊に復するの景況あるが如し譬へば名古屋城の金の鯨の如し之を下だして復た之を上げ其上下は正に以て天下人心の進退を見る可し、人心勢に乗じて中正を失ふの實を

見る可し今の人類の智と情とに於ては世事の弊を矯めんとして一發一中の明なきを見る可し、有形の鯁に於ても尙且然り無形の制度風俗に至ては必ず之よりも甚しきものある可し舊を矯めて未だ正に至らざるものもあらん、既に正に過ぎて還るを知らざるものもあらん、過不及の兩端に居ながら正に之を中として得々たるものもあらん此一段に至ては唯今の人類の無智無識を憾むのみ

然りと雖ども世の文明開化は次第に進むを常として退くものは甚だ稀なり其進むは何ぞや進取の主義に依らざるはなし進取の主義は其時代に在ては或は奇怪にして人を驚かすことありと雖ども後世よりして之を見れば決して奇とするに足らず徳川の初代尙武一方の世の中に藤原惺窩林道春等の諸先生が専ら文學を首唱したるは必ず世間の耳目を驚かしたることならん又寶曆明和の頃前野蘭化杉田鷗齋先生の流が始て荷蘭の書を講じたるが如きは當時に在て奇怪の最も甚しかりし者ならんと雖ども後世に至ては天下に幾惺窩を生じ幾道春を出し凡そ士人にして文を學ばざる者あれば却て之を怪しむの勢と爲り彼の蘭學なるものも時勢困難の其際に尙これを捨てずして天保弘化の頃は翻譯出版の書も甚だ少なからず文學の進歩以て見る可し

蘭學起原の事は蘭學事始と云ふ杉田氏藏版の書に詳なり

又古來の質朴節儉を保守して新奇の驕奢華美を嫌ふも古今の常態にして昔年西陣の織物の次第に精巧を致して男女衣裳の日に華美に移るは老成人の好まざりしとならんと雖ども今日に在ては織工の巧なるは文明の徴なりとて之を稱養せざるも

のなし又瓦葺の屋根も今日は甚だ普通なれども武江年表を見るに慶長六年江戸本町二丁目瀧山彌次兵衛なる者始て諸人に秀で、家を作らんと工み其屋根の表通り半分を瓦にて葺たれば半瓦彌次兵衛と異名を取たりと云ふことあり當時この町人は其屋根の壯麗を以て江戸中の耳目を驚かしたるとならん當に驕奢華美の術のみならず方今流行の人力車の如きも今を去ること百年寛政年間、中井竹山先生の著したる草茅危言の中に別駕車とて人車の一種を道中宿驛に用ひたらば大に便利ならんとて記したる者あり製作こそ違へ今の人力車の工夫なれども其時代には此先生の説を奇怪として顧る者もなかりしに百年の今日に至て天下一般の流行とは爲りたり先生の靈若し知るあらば地下に笑を含むことならん右の如く新奇の事物は容易に人情に適するものに非ず今人の耳目に尋常普通なるものは古人を驚かし古人の耳目に奇怪にして行はれざりしものは今日にして始て流行するのみ今の耳目を以て古代を思へば其固陋偏屈實に笑ふに餘あるが如くなれども當時に在ては決して笑ふ可に非ず所謂保守の主義は一種有力の働にしてよく進取の運動を制し之をして一時の自由を得せしめざるものなり然りと雖ども前に云へる如く文明の進歩は必ず進取の主義に依らざるはなし徳川の時代には保守の力、過強にして事物の局處に就て之を見れば殆ど前に進みたる者なきが如くなれども其時限中の數十年を隔て、前後を比較すれば必ず大に進歩したるものを見る可し進取の力も亦盛なりと云ふ可しされば進取は積極の働に

して保守は消極の働と云はざるを得ず實の利益は積極に在て此利益を取るの法を緩和し又制節するは消極の働なり蓋し世界人類の教育果して上達して所謂聰明睿智の域に至ることあらば心の欲する所に進み意の適する物を取り嘗て制節を要せざる可しと雖ども余輩の所見にては數千百年の後何れの日か此域に達す可きや之を保證する能はず唯今の有様にては進て文明を取るの道を本體と爲し事の今日に行はる可らざるは固より覺悟する所なれば敢て之を問はず恰も策を今日に建て、勝を數十年の後に期するのみ

又進取の主義とて只管舊を棄て、新に走ると云ふに非ず其本意は前に云へる如く進て文明を取るの義なれば之を取るの方便を撰ぶに固より事物の新舊を問ふ可らず新奇固より取る可しと雖ども或は舊物を保存し又これを變形して進取の道に利用す可きものも多し况や今の人智の有様にて萬代の後を洞察するの明は固より企望す可きに非ず唯十數年の未來を臆測して稍や便利ならんと思ふものを取るの外に手段あることなし譬へば之を政治上に論じ千萬歳に期す可らざる想像社會なるものを設けて考れば先づ人間世界に國を分つことも無用なり政府を立てることも無益なり國なし又政府なし何ぞ國君を須ひん何ぞ官吏を須ひん況や爵位等級をや唯是れ小兒の戯のみ斯の如く論じ去れば今の人間萬事は悉皆無益の徒勞にして進取の主義も此想像社會を目的として進むときは殆ど世に爲す可きものなくして人

事を虚無にするより外に術なきが如くなくとも今の世界の文明は其年齢甚だ若くして其事甚だ未熟なり眞實に小兒の如きものなれば此小兒の有様に從て進むの一法あるのみ故に今日に在て文明を語る者は萬歳を謀らず千歳を問はず唯僅に十數年の間に見込あれば熱心して之に従事せざるを得ず少年不學の徒は動もすれば進取の義を論するに劇に過ぎて却て世の嘲を取り人の信を失ふことなきに非ず畢竟彼の想像社會を唯心に想出するのみに非ずして時としては事實に行はんとするの念を發し或は實に之を行はんと企て之が爲に其言行往々迂濶なるものあればなり今日我國に於ても少しく民權論の端を開けば直に朝野の疑を起し或は之を目して共和政治論と云ひ或は政府に敵するものと稱して一概に擯斥せらるゝの弊なきに非ず民權論の爲には歎かほしきことなり論者の爲には殘念なることなり

第二章 人間社會の種族中孰れか保守の主義に従ひ孰れか進

取の主義に従ふ者ぞ

保守進取の兩義相對峙するの趣は前章に論じたり今此一章に於ては社會の種族に於て如何なる者が甲の主義に従ひ如何なる者が乙の主義に従ふ歟其兩様各これに従ふ所以の次第を示さん

第一都鄙の別あり 事物の流行は之に従ふ者の人數に由て勢力を得るものなり人戸稠密の地に於て

は其流行を傳ること速にして人數を得ること容易なり既に人數を以て流行の勢を得れば其勢は又以て勢を増し遂には事物の出處を問はずして唯流行の大勢のみを見るを常とす衣裳の時様なり唄の流行なり其蔓延の勢は流行病の傳染に異ならず蓋し病の傳染するも衣裳唄の傳染するも其趣は一樣にして其理も亦一樣ならん唯人戸稠密の都會に於て盛なるを見る可し或は田舎の地方に於て新説を唱へ新工夫を企てんとするものもあるも其繁衍甚だ遅々にして意の如くならざるが故に廣く之を施さんとするには必ず都會の地を経て一度び流行の勢を成し延ひて復た地方に傳るを得るのみ諸の時様流行都鄙の間に必ず三五年の前後あるを見て知る可し故に職人藝人より以上文人學士に至るまでも都會の地に居を占るに非ざれば其名を成して其説を分布せしむるを得ず都會は必ずしも人物を生ずるの地に非ずして唯これに居を貸すの逆旅のみなれども既に人物輻輳の地なれば進取の主義は何事にも先づ都會に行はれて其勢も亦盛ならざるを得ざるなり

第二智慧の別あり 有智無智相比較して其異なる所の箇條は甚だ多しと雖ども全體に就て論ずれば一方は在來の事物に安んじて多を求めず、一方は之に安んずる能はずして進まんとする者なり、一は足るを知る者なり、一は足るを知らずして之を足すの道を求る者なり、智術ある職人藝人は日に新工夫を運らして一步にても先人の右に出で以て世間の稱譽を得んとし學者士君子は一事にても古來未發

の説を發して社會の面を改革せんとし學生の心事は唯古人の忘るゝ者を補ひ今世に不足するものを足さんとするに在るのみ凡そ和漢西洋著書多しと雖ども紀事史類を除くの外は其論說皆古今の不足を補ふて文明に進まんとするものにして其明識と云ひ卓見と稱する者も唯新工夫を運らして新説を唱ふる者より外ならず明識卓見にして獨立の精神ある士人は悉皆進取の人と云ふ可し或は紀事史類の文字のみに心を用ひ古人の説のみを信じて全く無見識なる人もなきに非ざれども少しく才學さへあれば假令ひ自から新説を唱へざるも他の新説を聞て之に驚駭すること甚しからずして遂には其説を信じて之に入るの路もある可し方今我國にて西洋の新説を聞て此説に入たる洋學者は悉皆舊の漢書生たるを見ても之を知る可し唯舊習固守の固くして如何ともす可らざる者は無學文盲の愚民のみ此輩は百千年の舊習にて舊き事物には慣れたれども之に慣れて進退の路を知らず新説を聞て驚駭するのみならず甚しきは驚駭する程の働もなき者なり之を守舊の最も甚しき者とす故に進取の主義に従ふ者は智人に多くして愚人に少なし

第三年齢の別あり 少年は情高くして理に乏しく老成人は理密にして情に乏し孔夫子が七十にして則を踰えずと云ひしは情の既に衰へて理のみを存し其理に従て世に處すれば事々物々毫も故障なき其時の有様を自から察して發言せられしことならん歎但し聖人は一種の神聖にして必ずしも年齢に拘は

らず其徳義よく發達して則を踰えざるの位に至ることもあらん又年老しても自から活潑々地の働もあらん之を是非するは余輩の本意に非ざれば姑く議論を閑き今の世界に就て云へば假令ひ聖人以下の凡庸にても其人類をして悉皆七十歳の老人ならしめなば世の中に則を踰る者は自から少なく萬事靜謐にして天地は寂然たるとならん唯其天地に行はるゝ者は保守の主義のみにして文明の進歩は遅々たる可きのみ抑も年少のときは血液の運動盛にして神經の作用高く五官の働都て穎敏なるが故に之を老體の人に比すれば食ふものも旨きを覺え、視るものも美大に見え、嗅ぐものも芳しきを覺え、聽くものも面白く聞え、兩間の事物一として愉快ならざるはなし所謂情の高くして感動の鋭き時代なり然るに年齢漸く老して五官の作用次第に衰弱するに至れば之に呈するに往時の物を以てするも復た往時の愉快を覺えず加之往時に感じたる愉快をば之を記憶に存して忘るゝこと能はざるが故に今日同物を呈して同様の愉快を覺えざれば乃ち之を其身體老衰の因に求めずして却て其物の厚薄に歸することなきに非ず譬へば永年他國に移住する人が頻に故郷を慕ひ故郷の味を嗜み故郷の音を悦び故郷の山水を羨なりとし故郷の城郭寺院を洪大なりとして其實に過る者あるが如し田舎翁が江戸の美味を試み田舎の料理に若かずとして之を悦ばざるも其一例なり 幼稚のときに素讀を授けられたる師匠は生涯これが大先生と思ひ、一度び主人として仰ぎたる者は主従の關係を解きたる後も尙これを尊崇するの情を存する等其例は枚擧に遑あらず竊に案ずるに報國の心、君臣の義、父子の親、師弟の關係、等何れも年少の情態高き時加之年老すれば多節に生じて生涯忘るゝこと能はざるものならん又年老夫妻を亡び再び娶嫁して幸福薄しと云ふも亦一例なり

年世事の實驗を経て利害得失辨別の理に熟し輕々新奇に走るを好まず是に於てか當世の有様に不平を訴へ此れも無益なり其れも不用なり奇怪なり法外なりとて只管現在の事物を嫌ふて却て數十年前己が紅顔にして愉快なりし時の有様に復せんとするもの如し結局進取の事は老大の人と共に語る可らざるものなり之に反して血氣の少年は數十年前を知らずして得失辨別の理に乏しく唯今の有様を愉快なりとして益多を求め此物を見れば奇なり彼の説を聞けば妙なり失策に失望せず多忙に困却せず倒るれば復た起き敗すれば復た企て多々益進むを知て止るを知らず蓋し其進まんとするは何ぞや足るを知らざればなり其足るを知らざるとは今の有様愉快なりと雖ども尙これを不満足として將來を期する者なり故に老成人も年少も共に當時に満足するに非ざれども甲は之を厭ふて後ろに退かんとし乙は多を求めて前に進まんとする者なり若しも今の人間社會を擧て之を老成人のみに手に附したらば失策は少なくして鄭重ならんと雖ども人事は停滯不流の底に沈む可し之に反して年少のみに任じたらば事は活潑にして動く可しと雖ども粗漏失策の奇に富むことならん其得失を論ずるは本章の旨に非ず唯保守進取の働年齢に由て相異なるの状を示すのみ

第四貧富の別あり 地面を貸す商賣は安全なれども利益少なし、廻船の商賣は利益多けれども危し、資本を要すること最も少なくて利を得ること最も多きものは博奕相場なれども之を行ふて最も

危きものなり、凡そ事を爲すに利益あれば危険も亦これに伴ひ其危険の大小に隨て利益に厚薄もあるものにて商賈工業の企より政治の改革等に至るまで都て社會に新規の事を起すには何程の見込あるも鬼神に非ざるより以下は慥に其安全を前知す可らず一旦失敗すれば産を破るのみならず甚しきは身を殺すに至ることあり危険も亦大なりと云ふ可し若しも世の中に些少の資本を要せず些少の危険もなくして大利益を得べき事あらば萬人は萬人皆之に走る可しと雖ども古今未だ其例を見ず故に巨萬の財産を有する歎又は左なくも朝夕に不自由なくして安樂に渡世する人の爲に謀れば容易に事を企てざるを以て得策とす亦古今の事實に於ても此輩は常に事を爲すの念慮薄くして改革進歩の説に同意する者甚だ稀なり蓋し利益を得るを好まざるに非ざれども固有のものを失はんことを恐るればなり唯寒貧無産の輩は下無智の小民より上學者士君子に至るまで事を好まざる者なし此流の人は事變に遭ふて失ふものなきのみならず或は大に得るの望なきに非ず其狀恰も餌を費さずして魚を釣るが如し獲ざれば則ち已まんのみ獲れば則ち無より有を生ずるものなれば人間の快樂この右に出るものある可らず此一事は古今世界の例に於て明白なれば特に爰に喋々の辯を須ひず又寒貧に加るに獨身なれば事を企るに最も適當なりとす妻子を思ふの情は壯士の血熱を挫く一大劇劑にして往々之が爲に屈する者多し歴史に徴して古來決死の士が父母に訣別したる者と妻子を見捨たる者とを比較するに其の數甚だ差違あるを知

る可し父母を捨て、他郷に居る者は多けれども妻子に別れて世間に徘徊する者は甚だ少なし此一點に就て見れば親子の親みは夫妻の情の熾なるに若かざること明なり故に現在の社會に安んじて舊物を保守する者は必ず富家の主人にして之に反する者は寒貧獨身の壯年なりと云はざるを得ず漢土戰國の世に孟嘗君平原君に食客數千人と云ふは必ず此類の壯年生にして當時社會の動力たりしことならん又近代佛蘭西の如きも學者論客に獨身の人多くして之が爲に自から世論の喧しきを増すと云ふ日本にても議論の盛なる者は必ず居家を定めざる書生の中に多きことならん此流の人は今後増す有て減する無し其處置次第にて國の害を爲す可し亦大に益を爲す可し

第五官民の別あり 社會の人類には貧富貴賤あり智愚強弱ありて各其利害を殊にせり此利害の殊なる種族を合して之を一處の政府に支配し一定の法を以て制御せんとするとなれば其政法の一方に便利なるものは一方に不便利と爲り此種族に益する所あれば彼の種族に損して孰れか多少の不平なきを得ず然りと雖ども此不便損害を顧慮して各種各族の需に應せんとするときは處々に政を異にし時々に法を改めざるを得ず是亦不平の原因と爲りて一層の騷擾を増す可きのみなれば政府たるものは到底人民個々の意に適することは能す可らざるものと覺悟を定め勉めて其政を簡にし其法を明にして一定不變の旨を主張するより外に手段あることなし既に一定不變とあれば假令ひ目下に小利害あるも之を顧る

に違あらずして恬として看過するの情なきに非ず且此一定の政法を實際に行はれしめんとするには必ず多少の威權を要することなれば其威權の大本として腕力を用意し、之を用意して容易に之に訴へず恰も引て放たず鄭重の際に舊物を保守して現在の秩序を亂さず以て社會の安全を護らんとするものなり之に反して人民は各自其利害を論じ各自其便不便を訴へて嘗て左右を顧るを要せざるが故に局處に就て之を見れば所論皆正しきが如く所訴皆理あるが如し之に加るに世間に不平者は多くして得意者は少なく、得意者は黙して不平者は喧しく、喧嘩喋々止む時なくして遂に天下の公議輿論と爲り其方向は新奇變動を好むを常とす且又權を欲するも人類の常態なれば政府の人も動もすれば其權力を誤用して人民を抑壓せんとし之を壓すると愈重ければ人民の抵抗は愈強く是に於てか官民の軋轢を生ずることあり結局官は保守に失し民は進取に失するものと云ふ可し人品の罪に非ず勢の然らしむるものなり

右五個條に論ずる所果して事實に於て然るものならば進取の主義に従て新奇變動を企望する者は都會の状態を熟知して智術に逞しく年齢少くして家貧なる人民の中に之を見る可し政府は富人と老成人とに依頼して田舎の愚民を味方に取り以て保守の主義を維持するものなり但し論說の上にて斯く兩様に區別すと雖ども實際に於ては例外なる者も固より多からん唯人間社會の大勢を論ずれば斯の如しと云ふまでのことなれば讀者字句に拘泥して本旨を誤る勿れ

第三章 蒸氣船車電信印刷郵便の四者は千八百年代の發明工

夫にして社會の心情を變動するの利器なり

古來世に發明工夫甚だ尠ならず天文化學器械學等何れも時代に隨て面目を改めたるは諸書に據て之を知る可し古は地動の説、元素の發明、火器の製造より近代には種痘、瓦斯燈、紡績器械等其最も著しきものにして功德も亦僅少ならずと雖ども凡そ其實用の最も廣くして社會の全面に直接の影響を及ぼし人類肉體の禍福のみならず其内部の精神を動かして智徳の有様をも一變したるものは蒸氣船車電信の發明と郵便印刷の工夫是なり而して其起原を尋るに蒸氣船は千八百七年蒸氣車は千八百二十五年、電信は千八百四十四年より始まりて其實際に用を爲したるは未だ五十年に足らず郵便の法も英國に於て稍や其體裁を成したるは千六百年代に在りと雖ども其法に大變革を加へて今の盛大を致したるは千八百四十年同國「ローランド、ヒル」氏の立案にて全國道程の遠近を問はず書翰の目方半「オンズ」に付郵便税一「ペニ」と定めてより以來のことなり

國內の郵便税を平均するの法は古來未曾有の新工夫にして「ヒル」氏一度此案を立て、より以後は歐米諸國大抵皆これに従はざるものなし

又印刷の法も其由來は甚だ舊くして器械の種類少なからずと雖ども古來の印法、平面の活字版に平面の板を以て壓するものを改めて圓柱を用ひ或は圓柱に活字を植ゑ或は平面の活字版に圓柱

を轉して摺るの新工夫を加へしより俄に機關の活動を増して爾後又これに蒸氣力を用ひ印刷の迅速なること以前に百倍して以て今日の盛なるに至りしものなり而して其圓柱の用法は千八百年代の初英國の「ニコルソン」及び「サクソニー」國の「コーニフ」兩氏の創意に出でたることにて今を去ること僅に六十餘年に過ぎず

此大發明を以て世界の全面を一變したるは今更喋々の辯を俟たず電信を以て商用の報知を達し蒸氣船車を以て貨物を運輸するときは物價も各地に平均して假令ひ投機の商賈にても復た舊套に依頼す可らず 近來日本にても奥羽越後の米價東京の價と平均し又一昨年横濱にて生糸の價俄に騰貴したるときに其報知電信を以て直に地方の荷主に達して仲買商は却て大勝利を得ざるも其一例として見る可し 往昔荷蘭人が獨り東印度の香料を專賣したるが如き商法は萬々今日に行はる可きに非ず之を小にして云へば我日本鎖國の時代に大阪の商人が長崎に渡來する荷蘭船一艘に限ある荷物を買締めて一年の間日本國中藥品の相場を自在にしたるが如きも今日に在ては唯昔の物語に存するのみ又蒸氣船を作るは鐵道を敷くよりも容易なるが爲に初には船の用法のみ盛なりしかども近年に至ては鐵道を作ること日一日に増加して其止む所を知る可らず若しも今後歐羅巴より小亞細亞の地方に縱横して印度及び西伯里の地に亘り延びて支那の東岸に至るまで數條の鐵道を通じたらば世界中の商賈に何等の變を生ず可きや英國の如きは從前航海の利を失ふのみならず其本國周圍の海に妨げられて却て大陸の國々と商權を爭ふこと能はざ

るの勢に至るも圖る可らず又國境防禦の一點に就て考れば古の海國は海水を以て防禦の要害と頼みしも蒸氣軍艦の用法自在を致してより海岸の防禦甚だ困難を覺えしかども今後鐵道の制盛なるに至らば陸を走るの便利は水を渡るものに百倍して隨て海水も亦要害の一項と爲り之を頼むの情は昔年未だ蒸氣船車を見ざる時の有様に復することあらん形勢の變化も亦甚しと云ふ可し故に蒸氣電信は唯商賈の損徳に關するのみならず戰爭の勝敗、交際の得失、政務の遲速等凡そ人間の禍福皆此利器に由らざる者なし巧に之を用れば今日の寒貧明日の富豪たる可し其用法を知らざる者は白晝に家産を掠め去られて訴ふる所ある可らず蒸氣電信は人を貧にし人を富まし人を智にし人を愚にし甚しきは人を生かし人を殺し國を興し國を滅すことあり西人の言に電信は世界の面を狭くしたりと余は則ち云く電信に蒸氣を交へ用れば時を縮めて事を多くし以て人の壽命を長ふすと古人は一日に十里を歩したるもの今人は一日に三百里を走る、古人は一月を費して交通したる者今人は一分時間に其消息を知る、古人七十歳の壽を以て爲したる事業は今人三年の間に之を終り、古人百名の力を費したる者は今人一手を以て之を成す可し故に今日に於ても此利器を用ひる者と用ひざる者とを比較すれば其勢力權威に幾百倍の差違あるを知る可し

語に云く智極て男生すと余を以て此語を解すれば智とは必ずしも事物の理を考へて工夫するの義の

みに非ず聞見を博くして事物の有様を知ると云ふ意味にも取る可し即ち英語にて云へば「インフラル
メーション」の義に解して可ならん人生嘗て聞見せざる事に就ては兎角之に臆して遽に進て取るの氣
力を生ぜざるものなれども偶然に之を聞き又之を目撃すれば思の外のものにて一度び之に取掛れば又
隨て工夫も付き氣力も生じて容易に功を奏するもの多し雲水の言を聞て遊歷を思立ち、航海者に逢ふ
て船に乗るの念を起すことあり又田舎の小民が度々法庭に出入して之に慣れ、怯夫が戰場に臨て勇氣
を生ずるも其例なり、されば爰に古人の語を翻し聞見博くして勇生ずと云ふも可ならん而して今、人
の聞見を博くするが爲に最も有力にして其働の最も廣大なるものは印刷と郵便の右に出るものある可
らず譬へば現今英國の人口凡三千一百万、全國に發兌の新聞紙雜誌の類千六百九十二種、此内首府龍
動にて出版のもの三百廿種、全數の内毎日出版のもの、みを計ふれば全國百四十二種の内龍動には十
八種、發賣の最も盛なるものは龍動の「デーリテレグラフ」とて日に廿四萬餘紙を摺立て之に亞ぐも
のは「スタンダード」にて日に十七萬餘を發賣すと云ふ他推して知る可し此幾巨萬の紙數を毎日毎週
毎月に摺立て之を運搬するには蒸氣車に附して朝に印刷のものは夕に全國の四隅に周ねし尙急なるは
電信を以てして瞬間に報知す可し又雜誌新聞紙の外に郵便書翰の往復も亦非常の數なり千八百六十七
年英國にて郵便物の數、新聞紙等を除て書翰の數のみ七億八千萬餘にして之を人口三千一百万に比例

すれば大數一人に付二十五通の割合なり盛なりと云ふ可し 千八百七十四年の記に據れば郵便物の數、書翰九億六百萬にして共計十三億零五百萬個なりと云ふ本 此雜誌新聞紙及び郵便の書翰は即ち人の聞見を交易するの具にして凡そ一國內外の異事新説は之を讀み之を語り之を聞き之を傳へて殆ど洩らさず其狀恰も國中每人の眼前に明鏡を掲げて他人の思想言行を寫出すが如し聞見博くして勇生ずの語果して違ふことなくば英國人民の活潑にして進取敢行の氣力に富むも亦偶然に非ざるなり右は唯英國の一例なれども佛蘭西其他大陸の諸國に於ても大同小異のみ或は英の盛なるに及ばざるものもあらんと雖ども其及ばざるは進て未だ之に及ばざるのみ今日の有様にて退歩する者あるを聞かず畢竟其原因を尋れば印刷郵便の新工夫にして蒸氣電信これを助くるものと云はざるを得ざるなり

我日本にても既に鐵道電信あれども鐵道は未だ論するに足らず電信郵便も人民未だ其用法に慣れず印刷の如きも便利は則ち便利なれども尙未だ其盛なるに至らず譬へば雜誌新聞紙とて全國の各社を合して毎日の出版幾萬紙もある可らず甚だ微々たるが如くなれども全體の勢は進む有て退く無き有様なれば今後若し國中縱横に鐵道を敷き人民も次第に郵便電信の用法に慣れて心身活動の大切にして其の功能の大なるを知るに至らば我社會の形勢果して一變す可きは疑を容れず譬へば今の雜誌新聞郵書等も地方への配達(昔年に比すれば百倍の便利あれども)遅々たればこそ其便利少なきが如くなれども日

本國中必ず即日^に達するものと爲らば其流行は今日に幾倍して盛大を致す可し唯文書の報通のみならず理財上に於ても捨られたる産物に價を生じ、專賣の品物に名聲を落し、僻遠無人の里も鐵道の停車場と爲りて沿道の地價忽ち騰貴するもあらん、古來商船碇泊の港にて問屋の利を專にしたる地形にて一朝に産を失ふもあらん、唯貧富の浮沈平均するのみならず津輕松前の婦人は薩摩に嫁し、長崎の男兒は箱館の養子と爲り、昨日まで東京に寄留したる者は一夜の間に中國に轉宅して又翌日は北國に往來し、午前大阪に製したる菓子^は午後東京の茶席に用ひ、今朝四國に出版したる新聞に就ては夕に奥州に演説し、千里比隣思想相通じて方言語音なまりまでも平均するに至る可し又政治軍略に於ても朝に西南の警を聞て幾萬の兵は夕に馬關を渡る可ければ鎮臺を各處に設るを要せず或は今の縣廳も多きに過ぎて不用に屬する者ある歟又は其法を改ることならん尙些細の事に耳れば公私勤仕の者が亡父母の墓參にとて其墓所日本國中にあれば休暇は三日以上を要せず、各地に派出十里詰の旅費も不都合と爲り裁判の呼出しに八里詰の日數も之を廢せざるを得ず、凡そ今の日本社會日常の語に遠路なるが故に不都合、遠方の處を太義、東西隔絶して斯る間違を生じ、音信の路なきが爲に知らず、など云ふ辭柄は地を拂て用るを許さざることならん日本國中遠路あらざればなり思ふに數十百年の後は戦作小説の本にも父母の行術を求めて之に逢はず骨肉の兄弟別類の朋友岡らずも異郷に邂逅して一別三年初めて對面など云ふ馬琴流の趣向は全く用ゆ可らずして作者も困却することならん又義太夫本の文句に江戸長崎國々へと云ひ西は九州薩摩がた東は津輕蝦夷松前と云ふは偏境絶域の想像を現はしたるものなれども

既に今日に於ては夜前長崎何町の出火は今朝警視の分署に張出し三日前蝦夷地より出帆したる人は土産を持參して今日東京の家に來訪するゆゑ十歳前後の子供は義太夫の文句を聞て絶域の感を生ずることなし唯古老の人が古を想ひ今を見て今の便利を稱し又隨て時勢の變遷を歎息するのみ平氣なる者は少年にして狼狽する者は老人なり近時の文明開化は老人の心事を齟齬せしむるものと云て可なり 辭柄を用ゆ可らず事物を内分にす可らず況や

秘事密計をや若しも秘密の事ならば其事は唯本人一名の胸中に藏るに非ざれば僅に信友に語る可きのみ苟も古來杜撰の習慣にて他人の耳目に觸れなば其耳目は二三の耳目に非ずして全國三千四百萬の耳目と認めざるを得ず秘密も亦困難なりと云ふ可し本編第二章に異事新説は都會に行はるゝこと速にして田舎の地方には遅々たりと云ひしも蒸氣電信以下の利器眞實に其勢を逞ふるときは復た都鄙の別を爲す可らず國の全部を纏して一場の都會に變じたるものと云はざるを得ず地方の人民とて決して蔑視す可らざるなり

右は唯余が想像を以て今後の變化を推し量りしことなれば固より其箇條を枚擧明言する能はずと雖ども實際に於て其變化の意外に大にして且其波及する所、意外に廣かる可しとのことは今より之を保證して大なる過ちなかる可し 日耳曼にて鐵道を作りたれば國中に字を知る者の數を増したりと云ふ鐵道と文學と固より直接の關係あらざれば初より期したるに非ざれども其成跡を見れば斯の如し此類の事は他諸國にも甚だ少なからず結局蒸氣電信等の功能を明に前言するは人智に及ばざることなり 然り而して此蒸氣電信印刷郵便の四者は開國以來西洋諸國より輸入したるものにして開國の一擧なくんば我輩は今日に至るまでも此利器あるを知らざりしことならん世の人々は唯嘉永年中西人の日本に入たるを以て我一大變動なりと漫に之に驚くが如くなれども余は

唯其渡來のみを驚く者に非ず何となれば其西人なるもの蒸氣電信發明前の西人にして之と條約を結びたることならば深く心を勞するに足らざればなり假令ひ之と交るも唯鎖したる國を開いて双方實際の關係を變じたるまでのことなれば舊套の海防を嚴にして通信貿易す可きのみ若し或は其交際我に不便利ならば之を謝絶するも可なり現に寛永年中には外國人を打拂して彼れも亦甘んじて我國を去りたるに非ずや寛永以後彼の國人は日新の事業に勉強し我は太平に慣れて怠たることもあらんと雖ども文化中に至るまでも彼れより我に對して活潑なる働を示すこと能はざるは魯西亞人の蝦夷地に亂暴を企て次て其跡なきを見ても知る可し舊套の西人なれば我も亦舊套を以て之に應じて毫も恐るゝに足らずと雖ども唯嘉永年間始て米人の我國に來て通交の道を開きたるは何ぞや余を以て之を觀れば其働は米人の働に非ずして蒸氣の働と認めざるを得ず我は既に蒸氣の働に由て我國を開き開國の初に其功能を知り又隨て此蒸氣及び電信等を我國に入れたり故に我開國は單に外國の人を入れたるに非ずして外國に發明工夫したる社會活動の利器を入れたるものなり既に此利器を入れて之を用るときは我開國の一舉は唯外國と日本と相對する其關係の變化のみに止まらずして日本國中自家の變動を生ぜざるを得ず結局我社會は今後この利器と共に尙動て進むものと知る可し。

第四章 此利器を利用して勢力を得るの大なるものは進取の

人に在り魯國及び其他の例を見て知る可し

蒸氣電信郵便印刷の利器たるは前章に之を記し此利器を用ること愈巧なれば權力を得ること愈大なりとの次第も之を論じたり而して之を利用する者は保守者流に在る歟改進黨者流に在る歟と尋れば其働を以て甲を利するの利は乙を利するの利に若かざるが如し固より政府の如きは假令ひ其性質止むを得ざるの事情を以て保守の主義に従ふも素と社會中に於て智力に乏しからざる部分なれば之を利用せざるに非ず之を用ひて活動するものも多しと雖ども畢竟此利器の性質を詳に察すれば其用は止て守る者の爲には大なる功能なくして動て進むもの、爲には甚だ便利なりと云はざるを得ず今世界中の政府として日に文明に進むを好まざるものなし苟も世に新奇にして便利の工夫あれば必ず之を採用して捨るなからんと欲すと雖ども第二章の第五條に論ずる如く政府最大一の職分は現在の秩序を保護するに在て其際には自ら鄭重の風を存し世上の進歩駸々たる其間にも獨り勇退自重の情なきを得ず之を譬へば政府も人民も其文明に進むの有様は順風に帆を揚げて走る船の如しと雖ども政府の船は其走航の際に船中の事情を察し又外物の關係を顧るが爲に時々港にも碇泊し或は故さらに行程の緩急を爲し尙甚しきは順風を空ふして進まざることもある可し之に反して人民急進の船は唯一方に進て前後に顧る所あ

らざれば之を政府の船に比すれば自から緩急の差なきを得ず尋常の順風にして尙且斯の如し然るに今蒸氣電信印刷等は此順風の最も劇烈なるものにして其風勢を利するものは直行急進の人民に在る可き其理甚だ明なり然り而して人民の方に此便利を得て事の成跡如何を尋れば今の世界諸國の風に於ては必ず官民の不和を生ずるもの許多なりとす譬へば爰に名望高き學士論客が一編の雜誌を發兌し一場の演說會を開て新説を唱ふることあれば其説は忽ち社會の全面に流布して一時に人心を動かし熱心以て直に其方向に進まんとする人民の常態なれども政府に於ては遽に之と共に方向を同じふること能はず亦是れ自然の形勢にして官民の地位を殊にする所なり然るに千七百年代思想通達の利器（即ち蒸氣電信郵便印刷）未だ十分の便利を致さざるの時代なれば假令ひ民間に如何なる新説名案あるも其流布緩漫なるが故に政府は此緩漫なる時間を利用して徐々に謀を爲したることなれども今日の勢にては人民の心情は彼の利器に乗じて一時に進退を逞ふし心波情海滔々として他の徐々に謀を爲すものを許さず官民の軋轢益甚しからざるを得ざるなり

文明開化次第に進歩すれば人々皆道理に依頼して社會は次第に靜謐を致す可しとの説は動もすれば學者の口吻に聞く所なれども畢竟漠然たる妄想にして毫も證據なきものなり今の事物の進歩を見て果して之を文明開化とすれば其進歩するに従て社會の騷擾は却て益甚しかる可きのみ人民は既に直行進

取の利器を得たり此勢に乗じて顧て政府の有様を窺へば其緩漫見るに堪ずして之を蔑視せざるを得ず
譬へば日本に於て今日も尙舊幕時代の例に倣ひ官令は前筆の御家流に成りて大目付觸の田舎に達するは發令の後半年を過ぎ、山川
の險は要害と稱し態と其並行を難澁にして往來を遅くせしめ、人民の呼出しには善紙到來名主村添にて罷り出て些細の事に詳て終
日を費す等のとあらば人民は此虚置を見て其緩漫不便利を笑はざる者なかる可し今後とても鐵道の建築等次第に盛大を致して人の
舉動活潑なるに至らば今の政府の虚置をも尙堪へ難く思ふは必定なり五十里の道を二時間に走りて裁判所に出頭し其所に黙坐して
呼出しを持つが爲に三時間を費すとあらば堪へ難からん、日本國中を巡廻するには僅に三五日を費し旅行の領書には區戸長の奥印
より地方廳の手に渡り十餘日を經て始めて願濟とあらば是亦堪へ難からん是等を計ふれば枚舉に遑あらず學者宜しく自から之を想
像す之を蔑視し之を愚弄し又これを敵視して一時に之を改めんとする其勢は恰も人民にして政府を壓
制する者なれば政府は此壓制に堪へずして却て大に抵抗せざるを得ず其抵抗の術は唯專制抑壓の一手
段あるのみ之を執政者の英斷と云ふ前年佛蘭西にて第三世「ナポレオン」が在世の時の政畧、又近來は
魯西亞日耳曼等の國勢を見ても其政略は次第に專制に赴くもの、如し今其原因を尋れば人民の聞見俄
に其域を廣くして心情思想の運動一時に強勢を致したる者より外ならず或は千八百年代蒸氣電信等發
明以後の文明開化に由て政府の專制を促したりと云ふも可なり然りと雖ども此專制なるもの果して能
く其功を奏して人民の運動を制し盡す可きや一大疑問なれども余は斷じて之に答て否と云はざるを得
ず何となれば則ち政府の專制は一定の舊套にして人民の進歩には無限の新工夫あればなり譬へば官の
專制の力を強くせんとするの法は視察を密にし禁法を嚴にして書記演説の道を限る等の手段なれども
此手段は何れも陳腐にして或は今日直接の用を爲すが如くなるも後日間接の功なきのみならず假令ひ

如何なる強大政府にても其專制は直に蒸氣電信印刷郵便の力に敵せんとするものなれば之に敵して直接の即功もなきことならん今の世界の政府たるものは單に人民に對するに非ずして蒸氣以下の利器に當るものと覺悟せざる可らざるなり試に彼の胡蝶を見よ其芋蠅いもむしたるときは之を御すること甚だ易し指以て撮む可し箸以て挾む可し或は其醜を惡めば足^て以て踏殺すも可なりと雖ども一旦蝶化するに至ては翻々飛揚して復た人の手足に掛らす花に戯れ枝に舞ひ意氣揚々として恰も塵間の人物を蔑視愚弄するが如くなれども羽翼既に成る之を如何ともす可らず指以て撮む可らざるなり箸以て挾む可らざるなり今改進世界の人民が思想通達の利器を得たるは人體頓に羽翼を生ずるものに異ならず千七百年代の人民は芋蠅にして八百年代の人は胡蝶なり芋蠅を御するの制度習慣を以て胡蝶を制せんとするは亦難からずや故に云く今の世界の諸政府が次第に專制に赴くは自から止むを得ざるの事情なれども到底其功を奏するの望はある可らざるなり

人事の相互に抵抗する其趣は器械學の理に異ならずして甲の力百を以て乙を犯せば乙も亦百を以て之に應ずるを法とす手を以て人の頭を打つは頭を以て手を打たるゝに等し之を打つの劇しきは即ち打たるゝの劇しきなり故に政府にても人民にても其勢力次第に盛にして一方を壓すること次第に劇しければ一方より之に應ずる働も亦次第に劇しからざるを得ず千八百七十年英國刊行「エカルド」氏所著

の魯西亞近世史を見るに魯國の文明開化は「ペイトル」大帝以來未だ内地に及ばず唯西方諸國に面する部分のみ西方文明の風に從ひ内地に於ては依然舊套の專制を以て人民を御し大なる風波もなかりしが千八百二十五年より千八百五十五年に至る迄「ニコラス」帝在位の間、俄に此專制の勢力を増し千八百四十八年より千八百五十四年の間に新法を立て、日耳曼、佛蘭西、英吉利の良書を讀むを禁じ、其雜誌新聞紙を見るを禁じ、國帝の直許を得て五百「ルーブル」の金を拂ふ者に非ざれば外國に行くを禁じ、外國の技術家及び學生の來て國內の偏郷に入るを禁じ又國中大學校の生徒は各校三百名以上の入校を禁じ、有名なる論説及び學校讀本を讀むを禁じ、理論學を教へ普通法律を講ずるの業を禁じ、都て學校の生徒は兵學校の生徒と視做して尋常の學術技藝は帝の好まざる所なり云々とあるは未曾有の專制と云ふ可し然り而して此帝は天性豪氣正直質朴なる君にして假令ひ其專制は帝家遺傳の風なるも心情の剛柔に至ては之を「ペイトル」大帝に比して甚しき差違あるの證を見ず然るに大帝は頻に西方上國英佛日耳曼等の諸國を云ふの文明を慕ひ其物を採用し其學士を招き自國の人に強ひて外國に遊歴せしむる等當時の事跡を見れば上國日新の文化を欽慕して措く能はざる者の如くなりしに「ニコラス」帝に至ては全く之に反對し文明を視ること敵の如くなるは何ぞや蓋し偶然に非ず保守進取の兩義相衝撞したるものなり千六百年代の「ペイトル」大帝は人民を進取に導きたる者にして千八百年代の「ニコラス」帝は

人民の進取に困却したる者なり人事自然の勢なれども其衝撞の結末如何に至ては之を知る可らず左に同書中の大意を譯して當時の形勢を示さん

前略此時に當て「モスコ」及び「ペイトルスボルフ」の書生輩漸く上國の新説を傳聞して之を悦び三十年來英佛日耳曼に發兌したる新版の諸書を購ふて私に之を讀み就中「ホプス」「フラグト、ボツクル」「ダーウキン」「ベンザム」「リュージ」「ステュアルト、ミル」「ロイスブランク」等諸大家の明說卓論に逢へば大に感なきを得ず天地間に人間社會は魯國のみと思ひ政府は唯魯政府のみと思ひしに豈計らんや國境一帶の山を踰え一葦の水を渡れば文明の別乾坤を開て別に政府あり又人民あり然も其人民は固有の權理なる者を持張して人事の秩序自から紊れざる者ありとは亦奇ならずや、唯奇と稱す可きのみに非ず亦美ならずや、彼れも人なり我れも人なり我れは其美を取て之に倣はんとて其狀恰も曉鐘夢を破るが如く春雷蟄を啓くが如く復た蠢爾として舊乾坤に棲息す可らず世上の物論漸く沸騰せんとする其際に當て千八百五十五年「ニコラス」帝殂して今帝第二世「アレキサンドル」立つ是れより先き「モスコ」府の學士に「ヘルズン」なる者あり該府書生黨の巨魁にして魯國社會黨の元祖なり此學士嘗て政治の事に付き些細の得失を談じたるが爲に先帝の忌諱に觸れ罪を得て禁錮せられたりしが事に托して伊太里に行き遂に英國龍動府に走て復た歸らず同府に於て出版

の一局を開き毎週雜誌を發兌して其表題を「コロコル」と名く「コロコル」は魯語半鐘の義にして蓋し人民を警しむるの意ならん新帝即位の初に一編の論説を「コロコル」に記したる其文體は「ニコラス」の相續人たる「アレキサンドル」帝に贈る書翰にして痛く前代諸帝の處置を咎め獨裁の政を恣にして下萬民を寤め時勢に戻りて人民自由の大義を妨げたるは畢竟前代の罪なれば其相續人たる今帝は此罪を贖はざる可らず其贖罪の爲にとて様々の所望を述べ就中奴隸の法を即時に廢す可しとて恐れ憚る所もなく公然として魯國專制の治風を攻撃したるものなり此一編の雜誌世に出てより日ならずして「ヘルズン」の名聲は歐羅巴全洲に轟き貴賤上下の人民争て「コロコル」を購ひ當に學者士君子の之を悦ぶのみならず苟も字を知る者なれば傳へ又傳へて其名を記せざる者なきに至れり他邦に於て斯の如し其本國の景況推して知る可し幾千萬の群民始て政治自由の題目を聞き之に驚き之を悦び之を稱賛し之に心酔して餘念あることなし誌中に記す所は毫も疑を容れず恰も唯命是從ふ者の如くにして今日記者の言を以て人心を左右する其有様は昔年「ニコラス」帝が政權を以て全國を威服したるの勢に異ならず

魯政府に於ては嚴に此雜誌の輸入賣買を禁じ「ヘルズン」の姓名を記すことも許さず甚しきは計略を設けて「ヘルズン」なる者は既に死亡して此世に在らずとまでに諭告したることもあれども嘗て

人心の運動を止るに足らず全國到處として「コロコル」を見ざるはなし千八百五十九年「ノウゴロツト」の市に於て一時に十萬の部數を没入したることあり他推して知る可し蓋し此部數は海面より來らずして亞細亞の陸地より入りたるものと云ふ又此雜誌には通信の者甚だ多くして魯國の四隅より中心の首府に至るまで靡そ政治上の事情は一として發兌の本局に通せざる者なし廟堂の極秘密にして貴要の大臣數名の外に洩るゝの路なきものにて「コロコル」の本局には早く既に之を探偵し得て公然紙上に記し以て政府の耳目を驚かすもの少なからず「コロコル」の一舉以て魯國長夜の眠を驚破してより人民は恰も狂するが如く眩するが如くにして有志者と稱するものは皆他事を捨て、雜誌新聞紙の發兌を試み千八百五十八年より千八百六十年に至るまで新に局を開て出版したるもの七十七種、此内五十は「ペイトルスボルフ」に十五は「モスコ」に其餘十種は他の都邑にあるものなり各社互に其盛大を争ひ其自由主義の論鋒を競ふて之がため記者を雇ふに金を愛まず「ペイトルスボルフ」の富豪「ベスボローコ」氏は毎週雜誌の草稿一葉の價百「ループル」を以て名文を募り「モスコ」の學士「カトコフ」氏は月誌出版の局を買ふが爲に私立の學校を廢したり又政府の出版検査局に出仕せんとする者も甚だ少なからず蓋し一般の人心自由を唱るの時節なれば亦自由を以て名譽を得んとするの人情にて検査局に出仕して出版の免許を寛大にすれば自から當世流行の人

品にして政府を恐れざるの名を得べければなり故に従前は人々皆この局の責に當るを恐れて出仕を避けたる者今日は却て之を悦び家産に豊なる平民又は扶助の年金を受ける散官の輩は皆これを希望せざる者なし亦是れ一時の俠客風に出たるものならん或は出版検査の事に付き自由寛大に失して免職し家に産なき者あれば周旋人の協議にて之を補助するの風を成し「モスコ」府の「クローズ」氏の如きは此補助を得て却て富を致したりと云ふ

魯國の自由説は殆ど一時流行病の如くにして其勢力次第に蔓延し政府に於ても之を如何ともす可らず遂に千八百六十一年二月に至て奴隸の法を廢したれども此一舉を以て人心を鎮靜するに足らず蓋し數百年來の舊慣を一時に變革したることなれば奴主の不便利は固より論を俟たず其放解せられたる奴輩も頓に放たれたる籠の鳥の如く方向に迷ふて行く所を知らず籠を出たるの自由は以て籠を奪はれたるの難澁を償ふに足らざればなり又一方には是より先き首府及び「モスコ」邊に於て書生輩は多分書を讀まずして唯雜誌新聞の論説のみを悦び得々政治を談じ國事を議し或は各處に集會し或は政府に建議し其喧に堪へず依て千八百六十一年五月文部卿「ブリーチャーチン」舊海軍將官にて近頃日
本より歸り文部卿に轉任したる者の立案にて新法を設け大學校の謝金を増して毎半年に五十「ルーブル」と定め以て其入校の道を塞ぎ又生徒輩が私に社を結て同校の貧生を救助するため醵金を禁じ其醵金を處分する爲め委

員を撰ぶを禁する等様々に不自由なる新法を作て學者世界の物論を鎮壓せんと試みしかども僅に半年に過ぎずして復た書生の騷擾を引起し遂に數名の生徒を獄に下だすのみにして文部卿の策も其功を奏するを得ず

事態の困難斯の如くなる其際に「モスコ」に一學士あり名を「カトコフ」と云ふ此人は積年英國の治風を悦び立憲政體の説を頻に稱賛して稍や世に知られたる者なりしが千八百六十二年夏の頃政府の内命を得て雜誌を發兌し誌中公然筆を揮て「ヘルズン」の説を駁し其過激を罪し其偏頗を咎め首府の騷擾を醸して國安を害したる者は此亡命記者なりとて憚る所もなく論破攻撃したりしに世人も初は唯珍らしく之を讀たるもの漸くして其論に服して「コロコル」の名聲も稍衰運に傾かんとする其際に千八百六十六年四月四日「モスコ」の書生「カラコソフ」なる者短銃を以て國帝を狙撃して成らず直に捕縛して之を糺問すれば此者は貴族にも非ず又「ポーランド」の人にも非ずして魯國の顛覆者流社會黨の一人なり抑も此社會黨は近來魯の首府及び「モスコ」府に出現したる者にして日耳曼及び「ポーランド」の人は之に關係することなし其主義は元と佛蘭西より傳へ來りて彼の「コロコル」の記者「ヘルズン」を以て巨魁と稱すと雖ども純粹の黨與は甚だ多からず唯政府に向て衝撞するのみなりしが千八百六十三年魯政府の暴威を以て「ポーランド」の反民を壓伏して

より以來この黨與は固より其處置を悦ばず乃ち心事を變じて他の自由黨の中に混同し其説に謂らく魯國の農産平均の説を以て先づ之を「ポーランド」の地方に施行したらば遂には地主廢絶の事も實際に行はるゝことあらんとて只管この一點に論鋒を向けたれども社中過激の徒は其考の因循緩慢なるを悦ばずして別に一黨與を結び其説は人間社會在來の秩序をば悉皆顛覆廢絶するを以て主義と爲し人の私有を無にし、國を無にし、寺院を無にし、婚姻の法を無にし、社會の交際を無にする等一切萬事人爲の舊物を一掃せんとするの企望にして此大望を成すには先づ國帝を殺戮して之を無にし以て他に及ぼさんとする者なり其黨類固より少なしと雖ども其勢は極て猖狂なりと云ふ可し之を「ニヒリスト」の黨と云ふ「ニヒリスト」とは虚無の義なり蓋し此黨類は世の中に如何なる事物をも採用せずして唯在來のものを顛覆廢絶して以て愉快を覺ゆる者なればなり故に此虚無黨と自由黨と其性質を尋れば固より天淵の差あれども其所見は自から相符合するの點なきを得ず即ち貴族を貴びて人の種族を分つを惡み、又は每人に財産を分て之を私するを惡む等の箇條は自由黨の常に主張する所にして虚無黨も之が爲に力を得たること多し

右の如き事情なれば政府は國中一切の自由黨を擯斥して之を政敵と視做し之を鎮靜壓伏する爲には保守專制の主義に力を盡さざるを得ず乃ち「シユワロフ」侯を以て警察長官と爲し兇徒「カラコソ

フ」及び其黨類の吟味は「ムラビヨウ」侯に任じ第一着に時の文部卿「ゴロフニン」を黜けて之に代るに警察長官の親友「ホルストイ」を以てす蓋し其趣意は前の文部卿在職の間に普通學及び物理學を奨勵して學者の便利を増し以て社會黨虛無黨の蔓延を致したりとの罪を以てなり此他諸大臣の黜陟甚だ少なからずして政府は全く保守主義の政府と爲り尙其翌月兇徒暴動の翌月即ち千八百六十六年五月なり國帝の詔を下だして其大意に云く近來社會黨の陰謀を以て國民の權利私有及び宗教を害せんとする其企は先般捕縛したる兇徒の暴動に由て事跡既に明白其罪惡む可し蓋し我政府の寛仁大度自主自由の旨を誤解したるものなり今後國帝は益人民の權利私有を重んじ國內の貴族を保護して舊物を守る可ければ若しも此旨に戻て騷擾を醸す者あらば直に之を殲滅して赦すことなかる可し云々とて次で「モスコ」出版の新聞紙を停刊し又廢止し雜誌は唯「カトコフ」出版のもの「コロル」の反對説のみ盛にして政府の政畧は依然として千八百七十年に至れり

右は魯國近世史中千八百七十年までの大畧なり其人心騷擾の端は「ニコラス」帝在位の時に開き爾後人民の勢力と政府の勢力と相互に衝撞軋轉して一伸一縮其收局を知る可らず千八百七十年以來も同様の形勢にして政府の意の如くならず又人民の意の如くならず衝撞は益甚しくして本年四月も復た國帝に狙撃を試たる者ありしと云ふ其國情推して知る可し人民も政府も共に狼狽して方向に迷ふ者の如

し抑も人民自由の説は其由來最も久しく亞米利加の建國も元と此説の結果にして既に百餘年を経たり、されば世界中に自由論を唱るは其年月も久しく、其人物も多く、隨て著書も亦少なからずして地球上の或る部分にては既に已に陳腐に屬したる地方もあらんと雖ども如何せん千八百年代の初までは此説を傳達分布するの方便に乏しくして世界中多數の人民は之を知らざりしのみ然るに三四十年以來蒸氣電信印刷郵便の法俄に進歩して人民の往來を容易にし、物品の運送を便利にし、印書を速にして其配附を廣くしたるは恰も全世界中に思想傳達の大道を開きたるものにして之を譬へば學者論客の思想論説は地に産する物品の如く蒸氣電信等の利器は之を運送する舟車の如し地方に如何なる銘産あるも運送の舟車を得ざれば世に之を知て用る者ある可らず學者の新説も傳達の利器を得ざれば廣く人心を鼓舞するに足らざるなり近來英佛其他の國々に大家先生尠ならずして世界中に其新説を悦ぶ者甚だ多しと雖ども若しも此諸大家をして千七百年代より其以前に在らしめ爾後此利器の發明工夫なかりせば新説の勢力も今日の如くならざるは智者を俟たずして明なり譬へば千七百七十年代亞米利加にて「トーマス、ペーン」の書の如きは自由論の最も盛なるものなれども當時唯其本國の人心を鼓舞したるまでに止て世界の他の部分に及ばざりしは何ぞや唯其時代に其説を傳達分布するの利器なかりしが爲のみ固より人民たる者が其權理を主張して自由の味を知るには多少の智徳を要することにて且其

國々の習慣もあり教育の度もあり又貧富の差もありて必ずしも他の説をさへ聞けば直に振ふ可きには非ざれども其地方百般の事情に於て人民の地位既に已に上達し進て文明を取り振て自由論に歸す可き有様にして尙逡巡黙止するは畢竟新説分布の方便に乏しくして地方人民の聞見狭きが爲なりと云はざるを得ず今魯國人民の如きは「ペイトル」大帝以來衣食も漸く足り教育も漸く進み人民進取の資本正に熟したる其機に際して西方上國の新説を俄に輸入分布したることなれば其騷擾も亦決して偶然に非す千八百年代に於て始て然る所以の原因ありて内外の事情相投じて然るものと云ふ可きなり

自由進取の議論蔓延するが爲に官民共に狼狽して共に方向に迷ふは獨り魯國のみに非ず日耳曼其他君主政治の遺風に從て人民を制御せんとする國々は何れも皆困難を覺えざるはなし其政府たる者が自由論に從はんとするも論者の所望は過大にして事實これに從ふ可らず去述全く之を擯斥せんとするに論者の勢力も亦小弱ならず之に從ふが如く又これを擯斥するが如く曖昧の際に日一日を消し甚しきは内國の不和を醫するの方便として故さらに外戰を企て以て一時の人心を瞞着するの奇計を運らすに至る者あり佛蘭西帝第三世「ナポレオン」の如き是れなり然るに本章の初に云へる如く人民は近時の利器を得て羽翼既に成り政府に激すること愈甚しきが故に政府も亦時としては大に壓力を用ひ爲に双方の間に劇しき激動を生じて其勢は之を前代に比して幾倍の慘酷を増し遂には狙撃暗殺の暴擧に至るこ

とあり佛帝第三「ナポレオン」在世の時及び今日の日耳曼等の事變を見て之を知る可し佛帝日耳曼帝及び日
の宰相ビスマルク等が度々暗殺に罹らんとし
たる事は新聞紙に見る可し 文明と稱する今日の世界なれば是等の暴擧は次第に消滅す可き筈にて千八百年代には極めて不似合なることなれども前代に稀にして却て今代に多く然も三四十年來歐洲の文明一面目を改めたりと稱する正に其時限に當て特に人心の穩ならざるは何ぞや不可思議に似て決して不可思議に非ず蓋し今の世界の人類は常に理と情との間に彷徨して歸する所を知らず之を要するに細事は理に依頼して大事は情に由て成るの風なれば其情海の波に乗せられて非常の擧動に及ぶも亦これを如何とす可らず唯人類に道理推究の資なきを悲しむのみ然り而して其情海の波を揚げたるものを尋れば千八百年代に發明工夫したる蒸氣船車電信印刷郵便の利器と云はざるを得ざるなり

千八百年代即ち西洋に所謂近時文明（モデルン、シウキリジエーション）の時代を界にして其以前には暗殺の暴擧稀にして其以後に盛なるは西史を見て知る可し又日本に於ても古來暗殺暴殺の事少なからずと雖ども多くは君父の讎を復するため歎又は主人に忠義のため歎又は敗軍の鬱憤を晴らすため歎又は私の怨のため歎何れも近く直接の由縁ある者より外ならず然るに今を去ること二十年江戸の櫻田に於て徳川政府の御大老井伊公を暗殺してより以來幕府の末年に至るまで又引續き維新の後も政府貴要の人を暗殺し又暗殺せんとしたることは既に數回に及びたり其趣意は大抵皆私怨にも非

す又復讎にも非ず唯政治上に不平を抱きて其熱に狂したる者の如し假令ひ或は他に原因あるも暗殺者の口實する所には必ず政治上の事を云はざるものなし此流の兇徒は幕政二百五十年の間には極て稀にして殆ど聞かざるものにして二十年を界にして其以後頻に出現せしは何ぞや二十年は我國開港近時の文明を輸入したる紀元なり其文明の大變動に由て人民の狼狽したるものと云はざるを得ず

第五章 今世に於て國安を維持するの法は平穩の間に政權を

受授するに在り英國及び其他の治風を見て知る可し

前條々論する所に據れば政府と人民とは到底兩立す可らざるものにして文明の進歩するに従て益官民の衝撞を増し双方相互に其一方を殲滅するに非ざれば其收局を見る可らざるが如し歐洲諸國の形勢も亦困難なりと云ふ可し然るに此困難の最中に當て政治の別世界を開きよく時勢に適して國安を維持するものは果して何處に在るやと尋れば英國の治風是なりと答へざるを得ず抑も英政の良否如何に就ては世上に著書譯書も多くして人の普く知る所なれば爰に喋々の辯を須たす數百年來この治風を以て一國の繁榮を助けたることなれば固より良政と云ふ可し其結果甚だ美なりと雖ども余が特に英政を美なりとして之を稱賛するの點は既往の結果に在らずして現今將來正に人文進歩の有様に適して相戻ら

ざるの機轉に在るものなり英國に政治の黨派二流あり一を守舊と云ひ一を改進と稱し常に相對峙して相容れざるが如くなれども守舊必ずしも頑陋ならず改進必ずしも粗暴ならず唯古來の遺風に由て人民中自から所見の異なる者ありて双方に分るゝのみ此人民の中より人物を撰擧して國事を議す之を國會と云ふ人民より撰擧する者は國會の下院に會す上院の議員は人民の撰擧に非ざれども殆ど權威なきものなれば英の國會の權は全く下院に在りと云ふも可なり故に國會は兩派政黨の名代人を會するの場所にして一事一議大抵皆所見を異にして之を決するには多數を以てす内閣の諸大臣も固より此兩派の孰れにか屬するは無論殊に執權の太政大臣たる者は必ず一派の首領なるが故に此の黨派の議論に權を得れば其首領は乃ち政府の全權を握て黨派の人物も皆隨て貴要の地位を占め國會多數の人と共に國事を議決して之を施行するに妨あることなし且政府に地位を占ると雖ども國會議員の籍を脱するに非ざるが故に政府に在ては官員たり國會に在ては議員たり恰も行政と議政とを兼るの姿なれば自から勢力も盛にして事を爲すに易し、されども歲月を経るに従ひ人氣の方向を改め政府黨の論に左袒する者減少して一方の黨派に權力を増し其議事常に多數なれば則ち之を全國人心の赴く所と認め政府改革の投票(ウラート、ラフ、ケレダート)を以て執權以下皆政府の職を去て他の黨派に譲り退て尋常の議員たること舊の如し但し政府の位を去ればとて其言路を塞ぐに非ず前の執權は即ち今の國會中一黨派の首領にして國事に心を用ひて之を談論するは在職の時に異ならず唯全權を以て施行するを得ざ

るのみ政權の受授平穩にして其機轉滑なりと云ふ可し且又兩黨相分れて守舊と改進と其名を異にし名義のみに就て見れば水火相敵するが如くして其相互に政權を握るに隨て全國の機關忽ち一變す可きやに思はるれども事實に於ては決して然らず前に云へる如く守舊必ずしも頑陋ならず改進必ずしも粗暴ならず等しく是れ英國文明中の人民にして全體の方向を殊にするに非ず其相互に背馳して争ふ所の點は誠に些細のみ之を衣服に譬ふれば守舊も改進も其服制の長袖か筒袖かに於ては固より相同じと雖ども唯縫裁の時様のみを異にする者の如し今の魯西亞にて王室と虛無黨と相敵し昔年我日本にて攘夷家と開國家と相容れざりしが如き者には非ざるなり學者之を誤解す可らず、されども既に兩黨を分て政權を争ひ互に陳新交代すれば其交代の時は即ち舊政府を排して新政府を開くものにして之を政府の顛覆と名けざるを得ず故に英の政府は數年の間に必ず顛覆する者と云ふも可なり唯兵力を用ひざるのみ機轉滑なりとは即ち是の謂なり

右の如く政府の改革諸大臣の陳新交代は全く國會の論勢に任じて其會には大臣も亦議員と爲りて之に參與し眞に全國人民の意見を吐露するの公會と認る所のものなれば此公會の決議に由て政府の位を去ればとて其人の體面を損るに足らず假令ひ或は不平を抱くも之を訴るに由なし又舊政府に代て新政府を開くも其持續すると否とは自家の力のみに在らずして他に任することなれば深く之を榮とするに

足らず一進一退其持續する時限五年以上なる者は甚だ稀にして平均三四年に過ぎず不平も三四年なり得意も三四年なり榮辱の念自から淡白にして胸中に餘裕を存す可し故に國中に如何なる新説劇論を唱へるも之を拒む者なし之を唱へ之を論じ之を分佈傳達して果してよく天下の人心を籠絡すれば政府は之に席を譲るべきのみ之を要するに英の政府には一時一定の論ありと雖ども永世不變の恒なき者の如し此の政黨に權を得て政府の地位を占れば其間はその黨の論を持張して容易に動くことなし即ち一定の論なり、されども人心の方向時勢の變遷に従て政府を改れば初の一定論も亦通用す可らず永世不變に非ざるなり、田舎に簡單なる水車あり車の軸より丁字形にして兩腕を出し腕の端に水槽を附して流水の笕かきより落るものを受け其水一槽に滿れば則ち轉じて他の一槽を出現し一槽又一槽、滿れば落ち、落れば復た昇り其機轉甚だ奇妙なり若しも此水車の軸を支へて轉回を止め片腕の一槽のみに水を受けて其壓力に抵抗せしめたらば日ならずして腕木は打折せんのみ英の政府も亦この水車の如きものにして千八百年代文明の進歩に遭ひよく其壓力に堪へて嘗て政治の仕組に震動を覺えざるは政黨の兩派一進一退其機轉の妙處と云はざるを得ず唯英國のみならず荷蘭なり瑞西なり今日よく國安を維持して文明に進む者は其治風必ず英政に類する所あればなり魯西亞の如きは政治の車軸に巨大なる水槽を附し瀑布の壓力にも抵抗せんとするの勢を以て勉勵爭鬪することなれども到底其瀑布の源を塞ぐの術なし或は

政府の人も今の政略を以て全く得策とするに非ざる可しと雖ども如何せん一大帝國全面の有様を左顧右視すれば亦斷じて自由の風に従ふ可きにも非ず畢竟其暴政は止むを得ざるに出たるの策にして之を姑息中の果斷と云ふも可ならん當路者の苦心想ひ見る可きなり或は去て亞細亞大洲の中央を見れば其國內無事にしてよく社會の秩序を存する者あるが如くなれども其然る由縁は他なし人民の聞見狭くして未だ文明を知らざるが爲のみ試に今後支那の國內に鐵道電信線を架し印刷の器械を採用して郵便の法を施行したらば彼の人民も亦決して黙止する者に非ず必ず其社會に大震動を起す可きは智者を俟たずして明なり滿清の執政者は之を知て文明を拒む者歟或は知らずして偶然に之を嫌ふ者歟何れにも千八百年代の文明を國に入れて舊政府の風を維持せんとするは萬々希望す可き事に非ず我日本の徳川政府も之が爲に倒れたり滿清政府にして獨りよく之に抵抗するを得んや文明を入れざれば外國の侵凌を受けて國を滅す可し之を入るれば人民に權を得て政府の舊物を顛覆す可し二者其一を免かる可らず後世子孫必ず之を目撃する者あらん

以上所記に従へば英國の政府を改革するも又諸大臣を黜陟するも其權柄は全く人民に屬して國王は有れども無きが如く之を蔑視して顧る者なきやと尋るに決して然らず王室を尊崇するは英國一種の風にして假令如何なる自由黨の劇論家にも公然として王室の尊威を攻撃する者なし嘗に公然ならざ

るのみならず其本心の私に於て然るもの、如し蓋し英人の氣象は古風を體にして進取の用を逞ふする者と云ふ可し或は其度量寛大にしてよく物を容るゝ者と云ふも可なり彼の佛蘭西其他の人民が自由の改革と云へば直に國王を目的として之を攻撃し王室恢復と云へば直に人民の自由を妨げんとするが如きものに比すれば同年の論に非ず元來人を御するの法は習慣に由て寛猛の別ある可きのみ試に下等社會の家族を見よ其子弟たる者甚だ頑強にして容易に長者の命に従はず其交際常に粗暴なる言語を用ひ甚しきは腕力以て之を強迫して父母にして手づから其子を打擲する者多し之を上等家族の子弟が父母の顔色の緩嚴を窺ふて喜懼を催ふす者に比すれば甚しき相違なり其然る由縁は何ぞや唯習慣の家風にして上等家族の親子は相互によく容れて迫らず、相親て犯さざる者のみ今英國の王室と人民との間は恰も此上等家族の如き者にして嘗て相犯すの舉動なきのみならず中心に之を犯すことをも忘れたる者なり、犯さざる國王は益貴く、犯さざる人民は益親しく以て社會の秩序を維持するは人間最大の美事と云ふ可し文明は猶大海の如し大海はよく細大清濁の河流を容れて其本色を損益するに足らず文明は國君を容れ貴族を容れ、貧人を容れ、富人を容れ、良民を容れ、頑民を容れ、清濁剛柔一切この中に包羅す可らざるはなし唯よく之を包羅して其秩序を紊らず以て彼岸に進む者を文明とするのみ區々たる世上小膽の人、一度び尊王の宗旨に偏すれば自由論を蛇蝎視して其文字をも忌み一度び自由の主義に

偏すれば國君貴族を見て己が肩に擔ふ重荷の如くに思ひ一方より門閥一切廢す可しと云へば一方は又民權一切遏む可しと云ひ何ぞ夫れ狼狽の甚しきや事物の極度より極度に渡て毫も相容るゝ能はざる其有様は恰も潔癖の神經病人が汚穢を濯で止むを知らざる者の如し其愚笑ふ可し其心事憐む可し營に憐む可きに止らず世の亂階は大抵この輩に由て成るものなれば此點に就て觀れば亦恐る可きものなり

前に云へる英國の政權常に陳新交代して國安を維持する所以の理由を明にせんには今の人類の心情を察すること甚だ緊要なり第一舊を厭ふて新を悦ぶは人の心情なり山居する者は海を悦び海邊に住居する者は山を好む衣服飲食住居の物暫く之に慣るれば新様を好まざる者なし或は新陳循環して再び舊物に逢ふも暫時中絶したる者なれば亦新として樂しむ可し衣服首飾の時様の如き年々歳々新奇を工夫して其工夫に窮すれば復た數年前の陳腐に立戻て人を悦ばしむるもの多し、されば事物の好惡は其事物の性質に在らずして我心情の變遷に在るものと云ふ可し所謂實的には非ずして主なるものなり今一國人民の心情を以て其國の政治を視るも猶斯の如きものにして必ずしも治風の性質如何に拘はらず唯舊を厭ふて新を待つ意なきを得ず年々歳々同一の有様にして社會に事件なく官途に黜陟なく常道無變世の靜謐を坐視傍觀して端なき環を週行するが如きは情に於て能はざる事なり

第二今の社會に於て一國政府の事に關するは人情の最も悦ぶ所なり世に芝居を好む者甚だ少なから

す婦女子は無論學者士君子の流に至るまで雅俗共に之を悦ぶは各其見る所あればなり然りと雖ども其
觀客の衆中に於て樂しみを覺ゆるの最も大なるは狂言の作者にして自作の芝居を觀る者なる可し作者
が數日以前に筆を執り幽窓に獨坐して心に工夫を運らし何様の暗君をして何様の奢侈を恣にせしめ何
様の寶物を何處に藏めて何様に紛失せしめ、美人薄命、忠臣零落、切齒扼腕其收局に至て盜跖は誅夷
せられて顔子は壽なりなど、一心の中に生殺與奪を想像して之を一場の實に現はし以て衆人の喜怒哀
樂を自由自在に制御する其樂しきは殆ど譬へんに物なかる可し今政府の議政行政は此作者と役者とを
兼る者にして社會に行はるゝ所の者は悉皆己が想像の中に在らざるはなし去年偶然の發意は之を議定
し之を施行して今年の事實に行はれ以て千萬人の喜怒哀樂を支配す可し今日の事實を見て感ずる所あ
れば明日より其改革を工夫して功業の成否を試む可し恰も一國社會の活劇場に立て人の禍福を制御す
ることなれば誰れか此事に當て愉快を覺えざる者あらんや狂言の作者も尙且多少の愉快あり況や社會
の實劇を工夫し施行するに於てをや人民の熱心して參政を企望し其地位を以て社會最上の地位とする
も亦謂れなきに非ざるなり既に此れを以て社會の好地位とするときはこの地位に居る者は恰も寶を抱
いて人に示すの有様なれば傍より之を見て之を羨むも亦今の世界の人情なり

第三他人の寶を見てこれを羨むは人情の常として姑く之を許すも爰に凡庸の心中、人に言ふ可らざ

るの悪性あり即ち我に益する所なくして他を損せんとするの情なり彼れ取て代る可しと云ふに非ずして彼れ斃れなば聊か人意を慰ると云ふの悪念なり蓋し羨むとは我有様を上達して他に等しからんことを願ふ者なれども我に益する所なくして他を損せんとするの情は羨むに非ずして妬むなり羨むと妬むとは大に區別あり混す可らず譬へば貧富比鄰其貧者の私心を叩て之を吐露せしめたらば我貧を以て鄰の富に代る歟又は我に富を致して鄰の富と相對するは固より願ふ所なれども若しも富を以て相對するを得ずんば鄰を貧にして貧と貧と相對するも聊か以て満足なりと云ふことならん極て鄙劣なる思想にして殆ど士君子の口にも語る可らざる程のことなれども如何せん今の凡庸世界の事實に於て免る可らず火難水難愛兒を喪ひ良人に別るゝ等何れも人間の不幸にして其不幸に罹りたる人が他の不幸なる人に接して共に身の上を語れば其心事恰も符節を合するが如く俗に所謂悔み話しの合口なるものにして甚だ相親しむを常とす即ち同情相憐むものなり同情相憐むの語果して事實に於て然るときは禍福を殊にして情を同ふせざる者は相憐むの念薄くして却て妬ましき心情なきを得ず此妬心を満足するには必ず我に益することなきも地に損する所あれば以て一時の平を得べきものなり今一國の政權を執て事を議定し又施行するは俗世界の最も榮譽とする所にして俗眼を以て當路者を視れば即ち無上の幸福を得たる者なれば之を羨むのみならず或は之を妬むの心情なきを得ず凡俗の情態、怪しむに足らず且社會

中に生來嘗て地位を得たることなき者は貧賤と雖ども或は之に慣れて不満足の味を知らざる者多しと雖ども一度び富貴を得て更に之を失ふたる者は生涯其舊を忘るゝこと能はずして往々危險を犯す者なきに非ず難船したる船頭は必ず無理に金策を運らして再び粗惡なる船を作り投機の商法を以て一度び大家を成して後に失敗したる者は必ず復た無理を犯して投機に従事せざるを得ず政治の社會に於ても之に異ならず其社會中に不平の最も甚しくして危險なる者は嘗て好地位を占めて之を失ひし者なり譬へば我日本にて云へば免職の官員を始として全國の士族は皆この類に入る者なり此流の輩は世界の諸國に甚だ多し何れも皆政府に地位を求めて當路の者に交代せんことを欲し假令ひ或は自から之に代るを得ざるも新陳交代の際に失路の人あれば之を傍觀しても其私心の底には多少の快を覺ゆる者なり結局政府の改革を嫌ふ者は少なくして之を企望する者は甚だ多し今の世界の人情に於て改革は避く可らざることならん

又第四に己の身には毫も關係なく毫も損益する所なくして唯漠然の際に徒に他の難澁を見て悦ぶ者少なからず人類以下の動物に對しては所謂無益の殺生なるものはなり其無益を知らざるに非ずと雖ども之を好む者多きを如何せん亦是れ今世の人情歟、特り動物のみならず或は同類の人に對しても此情なきを得ず驟雨に人の狼狽するを見て悦び、旅人の犬に吠えらるゝを見て笑ひ、堂々たる武士落馬し

て衣裳を穢し、艶々たる美人車より落て醜體を露はす等其本人に於ては無上の難澁なれども皆以て路傍の人の一興を増すに足る可し尙甚しきは火事を見物する者あり人の家を焼き財産を失ひ老若男女狼狽奔走する其有様は實に氣の毒なる次第にして人間畢生の大災難と稱す可きものなれども遠方より見物する者は毫も之を心に關せざる歟、古來彼岸の火事を見て笑ふ者あるも泣く者あるを聞かず然かのみならず出火と聞て見物に出掛け頓に鎮火すれば却て大に落膽して其顔色不平なるが如き者あり人間の心思實に驚駭するに堪へたり然り而して此心思の動く所は元と羨むにも非ず妬むにも非ず唯徒に一時の興を催ふすまでの事なれども世間古今の事實に於て然るときは之を一種の人情と云はざるを得ず京都の俳人梅室の句に「愛相に、もひとつころべ雪の人」とは是等の人情を寫出したるものならん其意味甚だ深きが如し故に今政府の改革に就き之が爲に毫も損益する所なきものにて當路者の新陳交代に由て頓に失路の人を見るは恰も人民の爲に落馬落車雪に倒るゝの一興を催ふすものにして老成の勸辨ある學者歟又は其政府に直接間接の關係ある者より以下の衆庶は大抵皆これを悦ばざる者なし是亦政府の永續を妨げて其改革に故障を減する一種の事情なり

以上枚擧する如く政府の變革を好むは世界普通の人情にして殊に千八百年代文明の進歩に際しては其變革を促すの勢日に益急なるが如し苟も政府を立て、一定不變の治風に從ひ之を永年に持續したる

の例は千七百年より以上未だ近時の文明に逢はざる時代に於て英明の君主が獨り政權を握り恩威を以て萬民を統御撫育したる者の外に求む可らず今日に在ては假令ひ明君英主にても文明の風波に堪へるは甚だ易からず魯國の今帝の如し天資英邁にして其教育も亦尋常ならず歐洲諸國の帝王に比して決して一步をも譲る可き人物に非ざれども其政治に困却すると前章所記の如し況や君主自から政府の實權を執らずして他に任すること英國の如くなるものに於てをや國安を維持するの術は唯時に隨て政權を受授するの一法あるのみ此一義は和漢古今未だ人の言はざる所なれども唯これを明言せざるのみにして事實に於ては古來の歴史にも行はれて人も亦暗に論じたるもの、如し榮華久しく居る可らずと云ひ功成り名遂げて身退くは天の道なりと云ふが如きは功臣の私を戒しめたる言にして蓋し此意ならん固より古代の和漢と今代の西洋諸國とを比較すれば其社會の仕組も殊にして今の西洋にては一體の政黨に就て論じ古の和漢にては一個人に就て言ふことなれども其言の意味を擴めて之を考れば畢竟政權の歸する所、一處に定りて永年不變の有様に居るときは必ず様々の故障を生じて禍を致すとの意を表するものより外ならず古今の情態自から暗合する所あるを可し又國家創業多事の日に明君賢相、力を協せて國事を整理し其宰相が久しく位に居て輔佐の功を成したるの例は少なからずと雖ども太平無事の天下に名臣良弼が十數年の間よく貴要の地位を占めたる者は歴史に於て殆ど稀なり但し武功の

元老唐の郭子儀裴度の如きは却て樞密に關せずして例外なれども純粹の文官にして天下の政權を一手に握り永く其位を保たんとするは殆ど難きとにして若しも強ひて之を保たんとすれば必ず好惡の名を蒙らざるはなし唐の李林甫宋の秦檜の如き是なり秦檜の惡は外國交際の事に關するものなれば之を他日の論に附し今李林甫が惡名を得たる所以を尋るに古今の史論に従へば其罪は言路を杜絶し賢能を忌み屢大獄を起して人を害す云々とて専ら其心事の陰險なるを惡むものゝ如し余も亦論者と見を同じふして決して此罪人に左袒するには非ざれども竊かに案するに林甫が言路を杜絶して屢大獄を起したるは其性陰險なるが故に殊更に人を害して以て愉快を覺ゆるに非ず唯相位を固くせんと欲するの一念より止むを得ずして斯る慘酷の罪を犯したるものゝみ此時に當て天下太平日久しく有志の壯年學者論客の輩は恰も無事に寤められて殆ど身を安んずるの地なきが如き其最中に林甫獨り全權を以て相位に在る十九年とあり誰か之を羨まざる者あらんや、之を羨み之を妬み或は劇論を以て之を犯す者もあらん或は陰謀を企て、之を倒さんとする者もあらん尙甚しきは暗殺を工夫したる者もあらん此人心の波瀾を鎮靜せんとならば速かに一封の辭表を呈し冠を掛けて去る可きなれども林甫の策、此に出でずして毫も憚る所なく儼然相位に居て動かざるは陰險に非ずして屈強剛愎と云て可ならん故に林甫の罪は唯位を貪るに在て其慘酷陰險の舉動は畢竟位を固くするの方便のみ苟も位を固くせんとするには人を倒

さざるを得ず、人を倒さざれば則ち人に倒さるゝや必せり二者其一を免る可らず或は天稟の性質林甫の如くならざる人物にても林甫の權柄を執て十九年の相位を保たんとせば必ず亦林甫の策を學ぶことならん勢の然らしむる所にして人の罪に非ず其本人の爲にも取らず社會の爲にも亦不幸なるものと云ふ可し余弱冠のとき和漢の歴史を讀て樂まざるものあり名臣良輔暫く位に在れば輒ち黜けられ他人これに代て復た久しきを得ず史中比々皆是なり誠に隔靴の歎を免かれず時としては切齒扼腕卷を抛て怒る程のことなりしが今にして考れば其位に久しからざるは名臣たる由縁なりとの事を發明せり李林甫の如きも宰相たること兩三年にして位を去たらば或は唐代名臣の列に入て後世の史論家に惜まるゝこともあらん遺憾と云ふ可し然ば則ち隨時に政權を受授するの要用なるは千百年の古より事實に於て違ふなきを知る可し況や今の活潑世界に於てをや千八百年代の後に至ては益其急なるを見る可きなり

尙前の事實を明にするため英國に行はれたる政權受授の期限を示して其實を證せん亞米利加の合衆國は毎四年に大統領を改撰し隨て内閣の諸卿も一新するの法なれども英國に於ては其年限を定めず内閣の執權（プライム、ミニストル太政大臣と譯するも可ならん）を始として諸卿に至るまでも終身在職して妨なき法なれども事實に於ては決して然らず左の表は千七百八十四年より千八百七十九年に至るまで九十六年の間同國執權の新陳交代したる年月日と其在職の時限とを示すものなり

就 職 の 日	在職の期限	執 權 の 人 名
千七百八十三年十二月廿三日	十七年八十四日	ウキルリヤム、ビット
千八百一年三月十七日	三年五十六日	アヂントン
千八百四年五月十五日	一年二百四十一日	ウキルリヤム、ビット
千八百六年二月十一日	一年六十四日	ダレンウキル
千八百七年三月卅一日	三年百二日	ホルトランド
千八百九年十二月二日	一年三百五十日	ベルセワル
千八百十二年六月九日	十四年三百七日	ライウルプー
千八百二十七年四月廿四日	百二十一日	カンニンダ
千八百二十七年九月五日	百六十八日	ゴデリッチ
千八百二十八年一月廿五日	二年三百一日	ウエルリントン
千八百三十年十一月廿二日	三年二百三十一日	ダレイ
千八百三十四年七月十八日	百二十八日	メルボルン

千八百三十四年十二月廿六日	百三十一日	ロベルト、ビール
千八百三十五年四月十八日	六年百三十八日	メルボルン
千八百四十一年九月六日	四年二百九十五日	ロベルト、ビール
千八百四十六年七月六日	五年百七十三日	リュツセル
千八百五十二年二月廿七日	二百九十三日	デルビー
千八百五十二年十二月廿八日	二年三十七日	アベルヂーン
千八百五十五年二月十日	三年二十四日	バルマストーン
千八百五十八年二月廿五日	一年百四日	デルビー
千八百五十九年六月十八日	六年百二十二日	バルマストーン
千八百六十五年十一月六日	二百四十二日	リュツセル
千八百六十六年七月六日	一年二百四十一日	デルビー
千八百六十八年二月廿七日	二百三十五日	ヂスリエリ
千八百六十八年十二月九日	五年七日	グラットストーン
千八百七十四年二月廿一日	今尙在職	ヂスリエリ

右九十六年の間執權の交代二十六代、在職の時限短きものは百二十一日長きものは十七年八十四日五年以上の者は今の執權「ヂスリエリ」を合して七名、十年以上の者は二名のみ又この九十六年を二十六代に平均すれば一代在職の時限三年六分九厘餘に當り之を亞國四年在職の者に比すれば其交代却て速なるを見る可し抑も亞米利加建國の時に政體を作て大統領の交代を四年と定めたるは必ず偶然に非ず當時の諸名士が世界古今の形勢沿革を察して一國政府の樞要に關する者は其位を久しくす可らずとの事實を發明し之を議定して以て國法と爲したるものならん唯英國に於ては交代の國法約束なきのみなれども其政權を受授するの實は亞國に異なるなし是亦偶然に非ず畢竟英國歴代の實驗を経て遂に一種の治風を成し以て當時の國安を維持して社會の繁榮を助けたるものなれば之を先代の鴻業と云はざるを得ず然りと雖ども其治風なるものが千八百年代の今日に至り特に文明進歩の時勢に適して毫も社會の面に震動を覺えざるの美績は蓋し先人も嘗て期せざりし所ならん先人は今代の文明を前知せざりし者なり之を前知せずして之に適するの治風を遺したるは偶然の賜と云ふ可し余が特に英政を稱贊するも前に論じたるが如く唯この一點に在るのみ

又隨時に政權を受授するの緊要にして成規約束の有無に拘はらず必ず事實に行はるゝの證は之を西洋諸國に求めずして近く我日本の先例を見て知る可し日本にて徳川の初年は幕府も諸藩も所謂明君賢

相の相共に事を爲す者多くして政權は都て君上の手に在る時代なれば之を例外として閑き其後太平日久しきの間には概して明君は甚だ稀なるものとせざるを得ず其明君に乏しき時代に於て諸藩中家老にても用人にても藩政の實權を握る者が十數年の間、在職したるの例は極めて稀なるが如し余は多年此事に注意して諸藩の古老に質すに大抵皆然らざるはなし執權の重臣は一年にして辭職し三年にして黜けられ甚しきは藩中の物論沸騰して之を奸臣と名け不忠者と稱し之が爲に遂に蟄居申付けらるれば其代りとして職に就く者は即ち前年同様の故障を以て禁錮せられたる重臣にして此度の再勤こそ青天白日の愉快なりと得意の日月も亦復た久しからずして再び風雨に際し雪に位を全ふせざるのみならず身をも全ふすること能はざる其事情は各藩符節を合するが如し但し諸藩の事は廣くして之を調査すること甚だ易からず頃日幸にして徳川政府の御老中御勝手方の在職年表を得たれば之を左に示す

就 職 の 年 月	在 職 の 時 限	御老中御勝手方姓名
寶曆十二年十二月	十六年七箇月	松 平 右 近 將 監
安永八亥年七月	二年二箇月	松 平 右 京 太 夫
天明元丑年九月	五年十箇月	水 野 出 羽 守
天明七未年七月	二年五箇月	松 平 越 中 守

天保十四卯年閏九月	天保八酉年三月		天保五年二月	文政元寅年二月	文化十三子年十月	文化三寅年四月	享和三亥年十二月	寛政四子年八月	寛政元酉年十二月	
十箇月	六年六箇月		三年一箇月	十六年	一年四箇月	十年六箇月	二年四箇月	十一年四箇月	二年八箇月	
眞田信濃守	水野越前守	松平周防守	大久保加賀守	青山下野守	青山下野守	土井大炊頭守	戸田采女正	松平伊豆守	松平越中守	水野出羽守

天保十五辰年七月		十六年五箇月		堀 阿 部 伊 勢 守 大 和 守	
萬延元年申年十二月		以下慶應三年に至るまで七年の間は幕府の末期國事多端にして御老中の出處も殆ど常なきが如きものなれば其在職の時限も之を略す		安 藤 對 馬 守 水 野 和 泉 守 松 平 豐 前 守 板 倉 周 防 守 松 平 紀 伊 守 松 平 周 防 守	

實曆十二年十二月より慶應三年に至るまで百五年の間御老中御勝手方の在職二十代、これを平均すれば一代の時限五年二分五厘なれども萬延元年安藤對馬守以下六名は之を除き實曆十二年十二月より萬延元年十一月に至るまで九十八年間の有様を見るに在職十四代の内長きは十六年七箇月短きは二年二箇月、天保十四年より同十五年まで十箇月のものあれども同勤三名の内水野越前守は全權にして天保八年より起りたるものなれば其實は七年四箇月なり又此十四代の内十年以上のもは五代にして五年以上のもは七代なり此惣數を九十八年に平均すれば一代の在職正しく七年にして分數なし

右七年の數は之を亞英兩國のものに比すれば緩漫なるが如くなれども別に又御勘定奉行の新陳交代を見れば甚だ速なるものあり舊幕府古老先生の所説を聞くに徳川の政府も太平の時代に爲りては將軍躬から事を執るに非ずして専ら權柄の歸する所は御老中、若年寄と御勘定奉行とに在り而して此三役の中に各御勝手方なる者ありて會計の事を統轄す最も權力あり故に御老中の御勝手方は政府最上の執權として視る可し又御勘定奉行も公事方と御勝手方と兩様に分れ公事方は専ら地方の裁判を司り御勝手方は錢穀を司りて全權は御勝手方に在り若年寄は御老中の次席にして位貴しと雖ども實力に至ては往々御勘定奉行に及ばざるものあるが如し全權の御勘定奉行は其名義御勝手方とあれども權力の及ぶ所甚だ廣くして錢穀の出納は無論、凡そ政府の機密一として關係せざるはなく幕臣の黜陟も内實は其手に成るもの少なからず且其人物は必ずしも大祿の籙本のみに限らず往々卑賤より立身して其他位に昇る者多きが故によく世間の事情に通達して活潑力に乏しからず之に反して御老中は所謂大名なる者にして動もすれば下情を知らず之が爲に稀には御老中にして却て御勘定奉行に依頼する者ある程の勢なりと云ふ此外に大目付御目付等も權力なきに非ざれども畢竟表役なれば唯成規を守て之を維持するのみにして臨時に事を左右するの地位に非ず又内向に御側取次なる者ありて甚だ有力なるに似たれども其力は唯將軍の座右に近きが爲に得るものにして廣く政府上に事を爲す可らず此他御奏者番なり諸

番頭なり毫も政府の機密に關するを得ず全く無力の者と云て可なり右の次第に付御勘定奉行は幕臣十目の屬する所にして簇本御家人の有志者が畢生の力を以て青雲に志し其目的とする所は唯この地位に在るのみ即ち羨む者多く、妬む者多く、之に代らんと欲する者多く、之に代るを得ざるも其失路を見て悦ぶ者多きの地位なり結局一身を以て永年に持續す可き地位に非ざるなり其事實を證せんには文政元年より慶應三年に至るまで五十年の間に御勘定奉行の御勝手方三十六名あり二人勤なるが故に之を半折して在職の新陳交代十八代なり之を平均すれば在職の一代二年七分七厘と爲る其永續の難きこと以て見る可し之に反して彼の御奏者番諸番頭等の如きは殆ど終身官の有様にて他役に昇進するに非ざれば十年二十年も一處に止て動くことなし其寥々たること恰も山居無事、人の來て訪ふなき者の如し竊に案するに英亞諸國にて司法官は大抵終身官にして嘗て故障を見ざるも其原因は事務の靜なるが爲なる歟、固より彼の司法官と日本の御奏者番又は御目付等を比すれば其性質全く殊なるものなれども西洋諸國にては議政行政司法の三權其分界甚だ明白にして司法官の職掌は唯一定の法を守るのみの事なれば自から社會に威福を及ぼすこと少なきが故ならん人民の耳目を屬して最も煩はしきは議政行政の樞機に在るものと知る可し

本章の初より所論の大意を概すれば千八百年代に在てよく其文明の衝に當り嘗て震動を覺えざるも

のは特に英政を以て然りとす、英國の政權は守舊改進の二黨派に歸して一進一退其受授の法甚だ滑なり、政權全く人民に歸すと雖も尊王の意亦甚だ厚し、隨時に政權を受授するの緊要なるは世界の人情を察して知る可し之を枚舉すれば四條に分つ可し、此事の緊要なるは特り西洋諸國のみならず古代の和漢に於ても其實を見る可しとの趣意にして記者の所見は特に英政の機轉を稱賛するものなり今後世界の諸國に於て苟も千八百年代の文明を利用する者は必ず英の治風に倣ふて始てよく其人民の不平を慰めて國安を維持するを得んのみ今の世界の人類に對して其不平不満足の原因を除き盡さんとするは固より人力の能す可きに非ず英の治風に從へばとて不平論の消滅す可きには非ざれども不平論にても正論にても其論議に力を得れば輒ち其力を逞ふして一時の平を得せしめ復た暫時にして一方の論議喧しきに至れば輒ち之に讓て其力を逞ふせしめ恰も政府の每一新に不平の實を除くには非ざれども之を瞞着して之を忘れしむる者の如し即ち其一新の時節は舊き不平の既に衰へて新らしき不平の正に熟したる秋なり其政府の持續する時限は此新不平を慰めて更に又他の一新不平を養成するの時限なり其狀恰も去年の舊穀を食ふの間に今年の新穀漸く熟するもの、如し其新舊の期節を誤らずして互に交代するの働は機轉の妙所と稱す可きなり

我日本にても國會を開て立憲の政體を立つるの必要なるは朝野共に許す所にして嘗て之を非する者

あるを聞かず或は世上の論者が國會の設立尙早しと云ひ、徐々に之に進む可しと云ひ、漸く其用意を爲す可しと云ひ都て之を急にせざるが如きは實は老練したる考按にして余も亦これに同意なりと雖ども論者が之を急にせざる所以の理由を述て其證據とする所を聞けば往古英にて國會設立の沿革は斯の如くなりしと云ひ、佛蘭西にて遽に之を設けんとして云々の災害ありしと云ひ何れも皆近事の文明を見ざる以前の時代に行はれたる事實を引證して以て今日の事を判斷する者の如し蓋し論者は唯漠然として西洋諸國の文明を知れども其文明なるものが千八百年代に至て一面目を改め恰も人間世界を顛覆したるの事實をば忘れたる者ならん我日本は既に其近時の文明を利用して以て今日の有様を致せり此日本の爲めを謀て此日本の事を判斷するに今を去ること六百五十餘年の英國を持出し彼國王「ジョン」の時に有名なる「マグナカルタ」に調印し次で百年を過ぎ三百年を経て次第に人民の自由を得たるが如き緩漫至極の沿革を論じて以て今日の事を徐々にするの引證に用ひんとするも畢竟無益の空言にして聞くに足るものなし所謂芋蠅いもむしの事情を説て胡蝶に告る者なり誰か之に耳を傾る者あらんや試に見よ我日本は開國二十年の間に二百年の事を成したるに非ずや皆是れ近時文明の力を利用して然るものなり本編第三章の初に古人七十歳の壽を以て爲したる事業は今人三年の間に之を終る可しとは蓋し是の謂なり此長足進歩の時に當ては國勢更に復た一變して早晚國會を開くの日ある可き萬々疑を容れず唯

其時に於て政權を得たる者が永世不變を謀ることなく事の始より暫時の後には必ず復た交代するものと覺悟して恰も政權の席上に長坐するの弊なきやう企望する所なり本章の旨は唯この一點に在るのみ

民情一新終